研究テーマ

「伝え合う力」を育む援助のあり方

～言葉で表現する活動を通して～

沖縄市立宮里幼稚園
教諭　古謝　百合子

Ⅰ　テーマ設定の理由

幼児を取り巻く環境は，急激な社会の変化に伴い大きく変化してきた。情報化社会がますます進む現在，幼児も毎日マスメディアによる情報に浸り，テレビゲームなどをして遊ぶ時間が増えるなど生活形態が変わってきている。そのため，家族との言葉のやり取りさえも少なくなり，自分の考えや思いを言葉で表現できず，気持ちを伝え合うことが苦手な子が多くなっている現状がある。

幼稚園教育要領の「言葉の獲得に関する領域『言葉』」の「内容の取扱い」において，「言葉は，身近な人に親しみをもって接し，自分の感情や意志などを伝え，それに相手が応答し，その言葉を聴くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して，幼児が教師や他の幼児とかかわることにより心を動かすような体験をし，言葉を交わす喜びを味わえるようにすること」としている。

子どもたちが楽しく幼稚園生活を送るためには，日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，先生や友達と心を通わせる必要がある。

本園児の言葉の育ちに目を向けてみると，人前で話をする場面において，大勢の人の前で話をすることが苦手だったり，順序立てて話すことができなかったりする子が多く見られる。

また，話を聴く側の幼児の実態として，人の話を聴こうとしない態度や相手の心を傷つける言い方など「伝え合う力」を育てる上で，大きな課題がみえてきた。

子どもたちは，さまざまな体験活動の過程で，自分の感じた思いを表現できずにいる。それらを言葉で表現できない時に，うなずいたり，ほほ笑んだりなど言葉以外のもので表現していることがある。これまでの保育を振り返ると，このような子どもの表現をくみ取り，言葉として引き出すことができず，話したいという意欲を盛り上げることができずにいた。

そこで，「その子なりに感じた思い」をみとり，言葉として表現できるように援助することで，人前で順序立てて話をすることができるようにしたいと考える。また，友達の話を聴き，その思いを受けとめて応答する楽しさが味わえる活動を取り入れ，友達や教師と思いを共有できる場づくりをすることで，言葉による「伝え合う力」を育むことができるのではないかと考える。

以上のことから，言葉で表現する活動を通して，身近な人とかかわり，言葉で伝え合う場の設定や援助の仕方を工夫することにより，幼児一人一人が自分の言葉を育て，「伝え合う力」を育むことができるであろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　目指す幼児像

○思いや考えを伝え合い，心を通わすことができる子
○身近な人とかかわり，楽しく活動できる子

Ⅲ　研究目標

言葉で表現する活動を通して，身近な人とかかわり，「伝え合う力」を育むための援助のあり方

Ⅳ　研究仮説

1　基本仮説

身近な人とかかわり，言葉で表現する活動を通して，言葉で伝え合う場や援助の仕方を工夫

することにより，思いや考えを伝え合うことができるであろう。

2　具体仮説

（1）言葉の獲得と表現について捉えるとともに，「伝え合う力」を育む環境を構成するための条件について理論研究をすることにより，援助のあり方が明確になるであろう。

（2）言葉に関する実態調査や分析をし，年間指導計画を作成することにより，幼児の実態に応じた伝え合う活動や援助の工夫ができるであろう。

（3）身近な人とのかかわりを通して，応答する楽しさが味わえる活動を取り入れることにより，「伝え合う力」を育むことができるであろう。

Ⅴ　研究構想図

次ページ

Ⅵ　研究内容

1　研究内容１

（1）　言葉の獲得と表現について

国立教育政策研究所・教育課程センターによる「幼児期から児童期への教育」において「幼児期は，コミュニケーションの仕方が，身体表現による伝え合いからその土台の上に言語表現が育ち，言語表現による伝え合いへと，大きく変化していく時期にあたる。」とし，幼児期から児童期の教育を豊かにする視点として，言語表現の育ちをとりあげている。

そこで，幼児期に言葉がどのように獲得されていくのか，幼児の言語発達段階の特徴を捉えることから理論研究を進めることにした。

① 幼児期の言葉の発達について

言葉の発達段階について大久保　愛「幼児のことばとおとな」と民秋　言監修「2008 年ラポム 4 月号特別付録②　保育のキホン　発達手帳 0～6 歳」に示されているものから次のように捉えた。

ア　言葉の発達段階

年齢	（発達段階のとらえ）		特徴
	硯川和歌子	大久保愛	
0～1	準備期	ことばの準備期	・喃語期，母音を盛んに発音する。
1～1歳6か月	片言期	一語文の時期	・一語文を使い始め，身振りとともに自分の意思を伝える。
1歳6か月～2歳	命名期	二語文の時期 第一期語獲得期	・イメージを持って発語し二語文を話す。 ・なんでも知りたがる。
2歳～2歳6か月	羅列期	多語文，従属文の発生	・三語文を話し，会話を始める。
2歳6か月～3歳	模倣期	文章構成期	・発音がはっきりする。 ・大人の言葉のまねをする。
3歳～4歳	成熟期	一応の完成期	・言葉を使って日常のやりとりをする。 ・名詞や助詞を使い複文を話す。 ・文字を読み始める。
4歳～5歳	多弁期	おしゃべりの時期	・話す意欲が高く，言葉によるコミュニケーションが旨くなり，特定の仲良しグループを作ったりする。
5歳～6歳	適応期	第2期語獲得期（おとなことば模倣期）	・相手に応じて，言葉づかいを変え，自分の体験を言葉にして伝えようとする。
6歳～入学まで		就学前期（文字興味時代）	

Ⅴ　研究構想図

社会的背景

マスメディアによる情報に浸り，テレビゲームなどをして遊ぶ時間が増え，生活形態が変化し，人と人が直接言葉を交わし合う場や機会が減少している。幼稚園では，自分の言葉を用いて関係を形成したり修復していく力や友達をつくったり集団で楽しく過ごす力，実物にふれて体験し試行錯誤しながら自分なりに理解していく力などが，社会の変化に対応していく力として求められている。

県教育施策

○環境を通して行う教育の充実
○遊びを通した総合的な指導の充実
○基本的な生活習慣
○園内研修の充実

市教育施策

○望ましい環境構成を重視した幼稚園教育の充実

園教育目標

○元気で明るい子
○考えて行動する子
○思いやりのある子

家庭・地域の実態

テレビやビデオの視聴やテレビゲームなどで遊ぶ時間が長くなり，家族との言葉のやりとりさえも少ない状況である。

幼児の実態

日常生活において，会話を交わす機会が少なくなり，自分の思いや考えを表現できず，気持ちを伝え合うことが苦手な子が多くなっている。

教師の実態

身近な人とのかかわりの中で，幼児一人一人の特性に応じた伝え合う力を育成するための援助の仕方について模索している。

目指す幼児像

○思いや考えを伝え合い，心を通わすことができる子
○身近な人とかかわり，楽しく活動できる子

研究テーマ

「伝え合う力」を育む援助のあり方
～言葉で表現する活動を通して～

研究目標

言葉で表現する活動を通して，身近な人とかかわり，「伝え合う力」を育むための援助のあり方

研究の基本仮説

身近な人とかかわり，言葉で表現する活動を通して，言葉で伝え合う場や援助の仕方を工夫することにより，思いや考えを伝え合うことができるであろう。

具体仮説１

言葉の獲得と表現について捉えるとともに，「伝え合う力」を育む環境を構成するための条件について理論研究をすることにより，援助のあり方が明確になるであろう。

研究内容１

○言葉の獲得と表現について
○「伝え合う力」を育む環境を構成するための条件について

具体仮説２

言葉に関する実態調査や分析をし，年間指導計画を作成することにより，幼児の実態に応じた伝え合う活動や援助の工夫ができるであろう。

研究内容２

○言葉に関する幼児の実態把握
○年間指導計画の作成

具体仮説３

身近な人とのかかわりを通して，応答する楽しさが味わえる活動を取り入れることにより，「伝え合う力」を育むことができるであろう。

研究内容３

○伝え合う場の工夫と援助

検証保育の計画・実践・分析・考察

↓

研究のまとめ・研究成果と今後の課題

言葉の発達段階から，乳幼児は言葉を獲得し，言葉で自分の意思を伝え合い，身近な人とかかわる手立てとしている。そこで，援助のあり方を考えていく上で，特に幼児期後半（４歳頃～６歳頃）の言葉の発達の特徴を具体的に捉える。

イ　幼児期後半の言語発達の特徴：４歳～６歳

- 友達との会話を楽しむことができる。
- 集団での話し合いに参加できる。
- 今現在の場面から離れた経験の内容（過去，未来，見たこと，知っていること）を話すことや聴くことができ，物語的な内容などの話も理解できる。
- 話題からそれずに，出来事の順番を追って話したり，「思ったこと，感じたこと」など感情表現ができたりする。
- 相手にわかるように焦点を絞って簡潔に話したり，「～だから～だよ」と因果関係を捉えて話したりすることができる。また，「もし～だったら」と仮定形の言葉を使って相手の立場に立って，考えて話すことができる。
- 内言（心の中で蓄える言葉）により自分の行動がコントロールでき，行動についても計画的表現ができる。
- 自分から言葉の意味をたずねたり，簡単な言葉の説明ができるようになる。また，新しい言葉や言い回しを色々な場面で使いながら，言葉の意味を知り，使うことができるようになる。
- 重文「～と，～たり，～でも」や複文「～とき，～みたいな，～ぐらい」の表現ができ，続けて話せるようになる。
- 文字の意味や機能に気づき，その後に正しい文字を書こうとする。

以上の発達段階特徴を踏まえた支援の手立てを考え，活動を計画することが大切である。

②　幼稚園教育要領「言葉」の捉え

言葉と表現について文部省（平成11年）「幼稚園教育要領解説」では，次のように示されている。

「言葉は，身近な人とのかかわりを通して次第に獲得されるものである。人とのかかわりでは，見つめ合ったり，うなずいたり，ほほ笑んだりなど，言葉以外のものも大切である。幼児は気持ちを自分なりの言葉で表現したとき，相手がうなずいたり，言葉で応答したりするともっと楽しくなり，もっと話そうとする。さらに，自分の話を聴いてもらうことにより，人の話も聴こうとする気持ちになり，このような過程を経て，人の話を聴いて日常生活に必要な言葉もわかるようになる。また，幼児のものの見方や考え方は，言葉を使うことによって確かなものになっていく。」

さらに，幼稚園において言葉を使って表現する意欲や態度を育てる上で大切なこととして以下の事が示されている。

ア　生活の中で心を動かし，言葉で伝えたくなる体験を豊富にもつこと
イ　自分の経験したことや考えたことを自分なりに話すこと
ウ　友達や教師の話を聴くことなど伝え合う喜びを味わうこと

以上のことから，幼稚園教育では，日常の生活において，身近な人とかかわり自分の気持ちを言葉で表現し，相手に伝え，お互いの思いを伝え合うことで言葉の感覚を豊かにできると考える。

③　幼児期の言葉の獲得における「自分なりの言葉で表現する」ことの意義

小川博久らによる「新幼稚園教育要領の解説」では，以下の３点で述べられている。

ア　教師や友達の言葉や話に興味をもち，聴こうとする態度が育つことについて

先生や友達との間に安心して話せるような雰囲気があることや，相手に聴いてもらえるという信頼感が存在することにより，幼児は，教師や友達の話に興味や関心を持って主体的に聴くようになる。また幼稚園では，集団生活で使う特徴的な言葉「みんな，順番」といった家庭生活ではあまり使わない言葉に出会う。

初めは，言葉の意味が理解できなくても教師や友達の言葉を聴き，一緒に行動することを通して，次第に言葉の意味を理解できるようになる。

イ　自分の経験したことや感じたことを自分なりの言葉で表現することについて

幼児は園生活の中で心を動かされるような体験をした時に，親しい人に伝えたくなる。心を

動かす体験としては，楽しかった体験だけでなく，自分で気づいたことや発見したこと，美しさや不思議さを感じたことというように様々な機会がある。

だが，自分の伝えたい内容を言葉で表現することは，幼児にとっては難しい場合が多い。このような時に，言葉だけでなく表情や動作などを交えた表現を教師が肯定的に積極的に受けとめ，相互的にかかわりながら理解してあげることによって，幼児は自分が表現したかった内容を教師は分かってくれるという信頼感がもてるようになる。この信頼感に支えられて，幼児は安心して自分なりの表現をするようになる。そして，自分なりの表現が周囲の人に受けとめてもらえるという喜びと満足感を味わえるようにすることで，言葉で表現してみたいという意欲が高まっていくのである。

ウ　自分なりの表現が相手に伝わる表現へと変わっていくことについて

幼児は園生活において，自分のしたいことや相手にしてほしいことを相手に伝えることの必要性を理解していく。さらに，自分なりに表現しても，それが相手に伝わらなければその思いは実現できない。そうした問題に直面したときに，言葉による表現を相互理解のできるものに変える必要性がでてくる。その時に教師が大事な役割を果たすことになる。その役割とは，どのように言葉で表現すれば伝わるのかを教師がアドバイスすることである。そのアドバイスを受け，自分なりの表現を相手に応じて変えていく経験を通して，自分の思いや要求などを相手に分かるような表現で伝えていくことを理解する。

（２）「伝え合う力」を育む環境を構成するための条件について

「伝え合う力」を育むためには，幼児の言葉を育てなければならない。幼児の言葉の発達にとって，どのような環境にかかわることが必要なのかを捉える。

①言葉での表現が豊かになる言語環境

身近な人との関係が安定し，言葉での表現が豊かになる言語環境とは，高杉自子らによる「保育内容　言葉」では具体的に次のようなことがあげられている。

ア　さまざまな人々と出会う機会
イ　さまざまな行事や出来事との出会い
ウ　状況に応じた文脈的な言葉の使い方との出会い
エ　体験をことば化する機会
オ　言葉遊びを通してことばのおもしろさを学ぶ機会
カ　友達や保育者とのおしゃべりを通して言葉を交わす楽しさを味わう機会
キ　文字文化に接する機会

これらの環境において活動を展開する時に幼児は，言葉の獲得も十分ではなく表現できず，表情や身振り，声の調子などで表現することがある。森上史郎は，「幼児教育への招待」の中で「幼児は幼児なりに，一人一人がいろいろの考えや思いをもっている。それを相手にわかるように伝えようとしている幼児なりの努力や試行錯誤をしっかり受けとめ，援助するなかで，伝え合う喜びが育っていく。それには聴き手としての保育者の役割も重要である。幼児は自分と向き合って真剣に応答してくれる人を求めている。」と保育者の役割の重要性について述べている。

②人的環境条件としての保育者の存在

大越和孝らによる「保育内容『言葉』言葉とふれあい，言葉で育つ」の中で保育者の役割について以下のように示している。

ア　語りかけ

保育者の語りかけは，子どもの言葉を引きだし，行動を起こすきっかけとなる。

イ　聴き手の存在

幼児にとって，保育者は好きな人であり，きわめて親しい心安まる存在であって，何でも聴き入れて対応してくれる信頼すべき存在である。

ウ　好きな人の役割

じっくりと子どもの心に向き合って話を引き出し，聴ける保育者，それは子どもにとって大好きな存在である。

エ　親しみを持つ

親しみの関係が幼児の心を開き，話すこと聴くことが相互に楽しく営まれるようになる。保育者が幼児にかかわるとき，大切なそして難し

いかかわり方に「子どもに添う」ということがある。幼児の思いは明瞭な言葉で表現されるとは限らない。そこで，保育者は，言葉や表情に表れない幼児の気持ちを積極的に理解する努力をし，言葉にならない言葉に耳を傾ける必要がある。保育者は，幼児一人一人の態度や心情を見極めながら目線を合わせ，やわらかい声，やさしい口調で，名前を呼びかけ，一対一の対話を大切にし，信頼関係を育むよう配慮しなければならない。

オ　受けとめる

保育者は生活の中で，子どもが豊かに言語表現したり，感情表現したりしている場面を受けとめたり，認めたり，共感していくことが大切で，その積み重ねが子どもの言葉を育てていく。だが，幼児の話は，自分の思いつくままに話すので脈絡もなく，発音が不明瞭な場合も多いが，幼児の言葉を否定するのではなく聴き手となり，受け入れ，重要な部分については言葉を補ったり，正しい言葉に言い替えたりすることで，正しい表現を知ることにつながっていく。

カ　保育者自身の言葉を磨く

言葉は他者とのやりとりの中で育ち，磨かれる。保育者自身が言葉を育む環境として重要な役割を果たすことを自覚しなければならない。

以上のことから，日々の生活や遊びの中で，教師が子どもに寄り添うことを大切にしながら，身近な人に思いや考えを伝え合うことができるように援助の工夫をしたい。

2　研究内容２

（1）言葉に関する幼児の実態把握

①　実態調査アンケート

ア　調査目的

幼児の家庭でのコミュニケーションの様子や，言葉による伝え合いの実態を把握し，本研究の資料として役立てる。

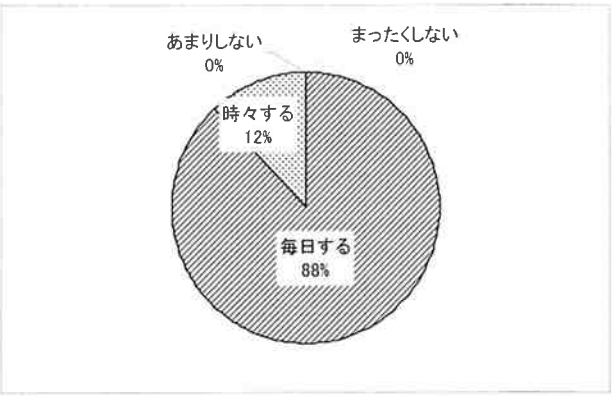
イ　調査方法

（ア）調査対象：宮里幼稚園２組 31 名の保護者

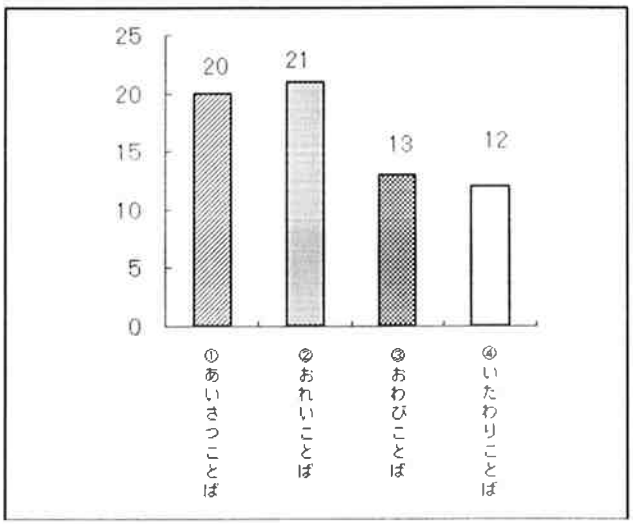
（イ）調査日：平成 20 年５月 13 日（火）

（ウ）回収率：80％

質問１　家庭において，家族であいさつをしますか？

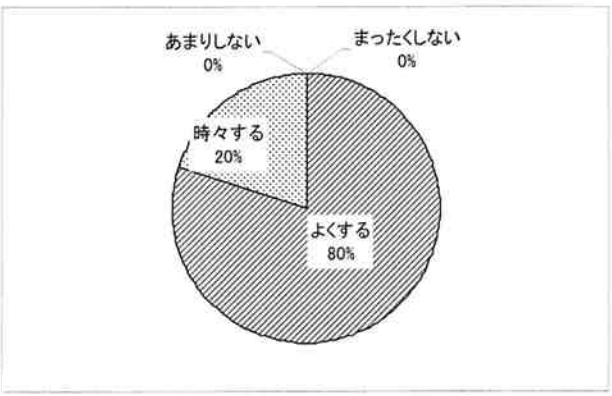


質問２　家庭でよく交わす言葉は，何ですか？
※（複数回答可）

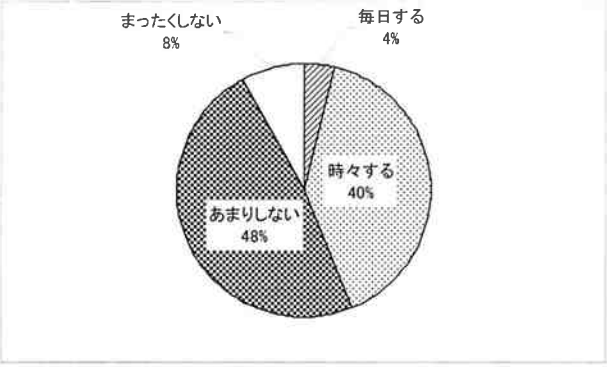


「あいさつことば」や「おれいことば」とは，家庭で意識的に使われている言葉である。

質問３　一日の出来事について，お子さんの話を聴いたり，一緒に話し合ったりしていまか？

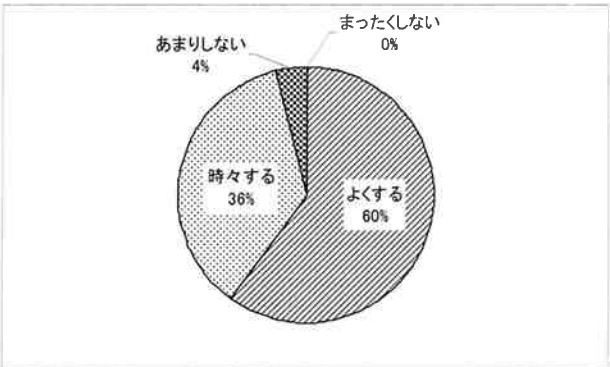


質問4　絵本や物語などの読み聴かせをしていますか？



絵本や物語の読み聴かせについての回答をみると，まったくしないと保護者が回答した子どもは，幼稚園での他児とのかかわりにおいて，言葉数が少なく，自分の思いを表現できるような援助が必要であった。しかし週 1～2 日でも読み聴かせをしてもらっている幼児の中には，積極的に友達とかかわり，おしゃべりを通して自分の気持ちを伝えることができる子も多く，質問 3 の回答と照らし合わせると，家庭での週 1～2 日の絵本の読み聴かせや子どもの話を聴いたりするコミュニケーションの時間をもてるような支援の必要があると考えられる。

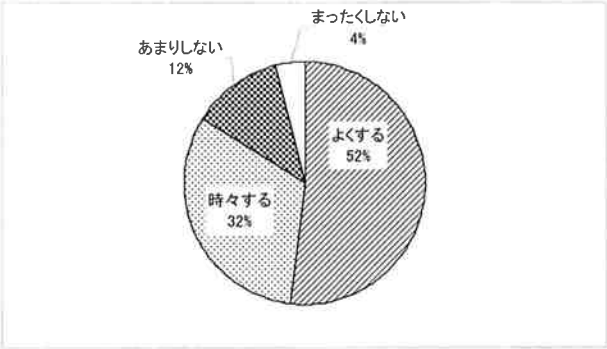
質問5　お子さんは，幼稚園の一日の出来事について話をしますか？



質問6　質問5について，お子さんが話してくれたエピソードで，印象に残っている事をお聴かせ下さい。（自由表記及び複数回答）

記入してもらえた主な内容	人数
○友達についての話	10 人
○植物や昆虫の観察の話	5 人
○幼稚園での出来事や遊びについての話	11 人
○無記入	6 人

質問7　幼稚園での話題で，友達の名前を出して話をしますか？



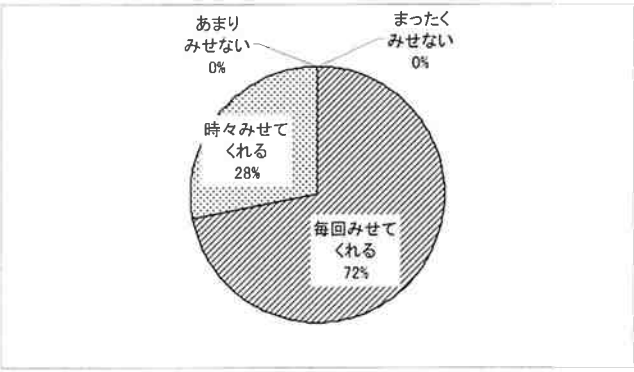
質問8　質問 7 の友達の名前がでてきた話題は，どんな内容が多いですか？（複数回答）

回答項目	人数
①楽しかったことやうれしかったこと	20 人
②トラブルになったことや困ったこと	4 人
③その他（自由記述）	1 人
無記入	2 人

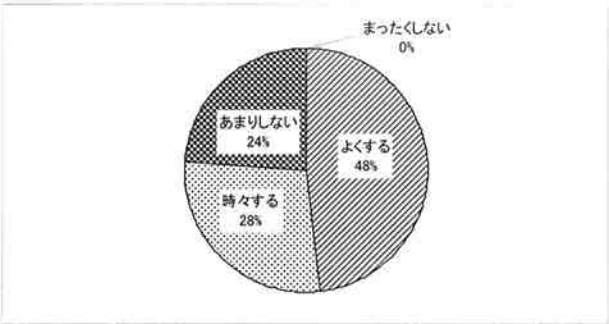
遊びを通して気の合う友達とかかわり，楽しかった出来事と一緒に友達の名前を覚え，家庭でも話題にしているように思われる。

幼稚園では思ったことや感じたことを言葉として表現することは少ない状態であった。しかし，家庭において幼稚園の一日の出来事を 96%の子が家族に伝えていることがわかった。

質問9　お子さんは，幼稚園からの手紙やお知らせ等をみせてくれますか？



質問10　質問 9 で「①毎回みせてくれる，②時々見せてくれる」と答えた方にお聴きします。お子さんは，手紙の内容について，話しますか？



幼稚園からの家庭への手紙は，しっかり渡すことができている。また，その中の 76%の子が，手紙を渡すだけではなく手紙の内容についても話をしていることが明らかになった。

[全体の考察]

〇生活の中での学びの体験

〇かかわり合い，認め合い，心が通い合う信頼関係を育てる

アンケート結果から子どもたちは安心できる家庭において，幼稚園生活で自分の心に留まった思いや感じたことを，自分の言葉で家族に伝えていることが分かった。

このことから幼稚園生活においても教師が，一人一人の思いを認め言葉として伝えていくことで，家庭のように安心し，伝え合える信頼関係を築くことにより，感じたことや考えたことを幼児同士で伝え合い，感動を共有することで子どもたちなりの気づきが生まれ，そこに学び合いが育まれると考える。

② ソシオメトリックテスト

ソシオメトリックテストとは，子どもにクラスメートの写真や名前の書かれたリストを見せて，各クラスメートとどのくらい一緒に遊びたいかを評定してもらう「仲間評定法」と，好きなクラスメート「選択」と嫌いなクラスメート「排訴」を数名あげてもらう「仲間指名法」がある。子どもの仲間内地位を検討したり，クラスの中でグループなどを知ることができ，友達関係を広げる手立てともなるテストである。

本研究では，グループ作りをし，活動を進めていく上で学級内での友達関係を把握するため，学級の中で好きな友達をあげてもらう「選択」だけを行った。幼児期は好きな友達との関係を基盤にかかわりが広がっていくことを考慮し，あえて「排訴」（嫌いな友達をあげてもらう）は行わないこととした。表１はその結果である。

表１（５月２２日テスト実施　◎：相互関係，〇選択関係）

（選ぶ側）

（選ばれる側）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	◎	〇
1					◎	〇			〇								◎										◎					3	2
2			◎			◎																〇									〇	2	2
3		◎		〇					◎		〇			◎	◎																	4	2
4									〇	〇		◎							◎	◎	〇	〇	〇		〇	〇					〇	3	8
5	◎			〇									◎			〇	〇															2	3
6		◎									◎																					2	0
7			〇					〇	◎			〇	〇	◎			◎															2	5
8										〇																						0	1
9		◎	〇				◎	〇		〇				◎	◎		◎															4	3
10												◎	◎	◎									◎									4	0
11		〇				◎										〇																1	2
12				◎	〇				〇	◎				〇					◎													2	4
13					◎				〇	◎							◎															2	2
14			◎	〇			◎	〇	◎	◎	〇				〇		◎															4	5
15	〇	〇	◎		〇	〇		〇	◎			〇					◎															3	6
16			〇										〇				◎															0	3
17	◎														◎													〇				2	1
18																							◎	◎					◎	◎		3	1
19				◎						〇										◎		〇									〇	2	3
20				◎															◎		◎					〇		〇				3	2
21							〇		〇	〇									〇	◎		〇	◎	◎				〇		◎	〇	4	7
22																	〇															◎	1	1
23										◎								◎			◎	〇		◎							〇	4	2
24										〇								◎			◎	〇	◎								〇	3	3
25											〇						〇					〇					〇				〇	0	5
26						〇																										0	1
27	◎										〇						〇					〇			〇			〇			◎	2	5
28																														〇		0	1
29																			〇			〇		〇				〇		◎	〇	1	5
30				〇														◎			◎		〇						◎		〇	3	3
31																	〇					◎					◎					2	1
	4	4	6	6	4	5	3	4	9	10	5	4	4	5	4	2	12	3	5	3	4	11	6	4	2	2	3	5	2	4	11	68	89

テストの結果として，人数を限定せずに好きな友達を選んでもらったところ， 選ぶ側からは，1～2 人しか選ぶことができなかった幼児が 4 人いた。また， 選ばれる側からは，1 人からしか選ばれなかった子が 3 人おり，相互関係もみられなかった。 気持ちの通じ合う友達があまりできていない子たちを中心に互いの考えのよさを受けとめ，認め合う関係を育て，より多くの友達とのかかわりを広げていけるように，グループ構成に配慮し，援助していく上での手立てとした。

（２）「伝え合う力」を育むための年間指導計画の作成

言語発達の特徴を，実際の幼稚園生活の流れに即した姿に捉え直し，長期の指導計画を考える際に「伝え合う力」を育む上での留意点について捉える。

②「伝え合う力」を育むための指導計画

期		Ⅰ期（4月～5月）	Ⅱ期（6月～7月）
発達の過程		一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して幼稚園生活に親しみ，安定していく時期	気の合う友達との遊びのなかで，生活する楽しさを味わっていく時期
ねらい		・新しい生活や環境に慣れ，友達や先生との遊びや生活を楽しむ。 ・教師や友達の話などをよく聴き，自分の考えを伝え，遊ぶ楽しさを味わう。	・友達とのつながりを深め，互いの思いを伝え合いながら遊びを進める。 ・感じたことや考えたことを工夫して，さまざまな方法で表現しようとする。
指導内容の視点	身近な人とのかかわりにおける言葉の育ち	・気持ち良くあいさつを交わしたり，名前を呼ばれたら返事をしたりする。 ・教師や友達と過ごす楽しさを味わう。 ・教師や友達の話を聴き，内容を理解する。 ・自分の気持ちを相手にわかるように伝えようとする。	・友達と一緒に遊ぶ中で，役割を分担したり，協力したりしながら遊びを進める。 ・自分たちで考えを出し合い，話し合って，生活の仕方を決めたり，場を整えたりする。 ・遊びを通して，意見や感情の行き違いを経験し，相手の気持ちをわかろうとする。
		・笑顔であいさつを交わし，友達や先生の名前を覚える。 ・遊びを通して，気の合う友達づくりをする。 ・幼稚園の生活や当番活動の仕方が分かる。 ・話を聴く。（朝の会や帰りの会，絵本の読み聴かせ） ※年間を通して ・がんばり言葉の取り組み。※年間を通して	・名前を呼んで，あいさつを交わす。 ・進んで当番活動に取り組む。 ・グループの名前を自分たちで決める。 ・色々な表現方法で，思いや考えを伝える。 ・話したり聴いたりする。（話し合いの場で，体験したことや感じたことを伝え合う） ・家庭における読み聴かせ活動。（幼稚園・家庭と連携して言葉を育てる）※年間を通して
みんなでかかわる活動	学級グループ	・固定遊具・砂場・集団遊び（かごめかごめ・はないちもんめ・鬼ごっこ等） ・手遊び歌・絵本を見る・粘土遊び ・絵を描く・折り紙や切り紙遊び・ままごと	・水遊び（砂場で・フィンガーペイント・色水遊び・シャボン玉）を試したり，工夫したりする。 ・プール遊び・製作遊び（時計，水に浮くもの） ・ゲーム遊び（イスとりゲーム・おおかみさん） ・小動物や虫を見つけて発見を楽しむ。
	園全体（行事等）	・入園式　・親子交通安全教室 ・誕生会（毎月実施）・アサガオ植え ・春の遠足　・体育館活動（体育館使用の約束，リズム遊び）	・絵本タイム開始・良い歯の表彰式 ・体育館活動（フォークダンス，リズム） ・プール活動・園外保育・夏野菜の栽培 ・バフェパーティー
☆援助・配慮 ○環境構成		☆教師も一緒に遊んだり一人一人の遊びを見守ったりしながら，子どものつぶやきや要求を見逃さず対応し，遊びが発展するように援助する。 ☆その日のできごとをみんなで話し合ったり，次の日の予定を伝えたりすることで，明日の見通しがもてるようにする。 ○子どもたちが考えて活動できるようにグループ表や当番活動表，活動予定や活動の手順などを教室に掲示する。	☆何かに挑戦したいと思っている気持ちや，役に立ちたい気持ちを認めて，言葉や態度，具体的な活動を通して援助する。 ☆集団活動やグループ活動などの機会を多く持ち，その中で自分の力が十分に発揮できるような助言や援助をする。 ☆友達関係を深めるために，仲間に入ったり，アイディアを提供したりして，状況に応じた援助をする。 ○選んで取り組める場や活動を多くするとともに，頑張って力を試せるような場を設定する。
家庭との連携		・園に持参する持ち物に記名をしてもらう。 ・アンケートの協力願い ・学級通信の発行（年間を通して）	・家庭での読み聴かせ活動における，親子での会話の記録（絵本貸出カードを利用して）※年間を通して

期		Ⅲ期（８月～１２月）	Ⅳ期（１月～３月）
発達の過程		友だちとイメージを伝え合い，葛藤を味わいながらも，協力して遊びや生活を進める時期	互いの力を認め合いながら，友達同士で目的をもって幼稚園生活を展開し，自信をもって行動していく時期
ねらい		・遊びや生活の中で，友達と共通の目的をもって活動を展開し，充実感を味わう。 ・自分の経験したことや考えたことを話し，伝え合う喜びを味わう。	・思いや感じたことを豊かに表現し，伝え合うことで教師や友達と心を通わせる。 ・友達の存在を認め合いながら協力して遊びや仕事を進め，充実感を味わう。
指導内容の視点	身近な人とのかかわりにおける言葉の育ち	・遊びの進め方を友達と話し合い，協力したり決まりを守ったりして遊びに取り組む。 ・友達と一緒に生活する中で，相手の気持ちに気づいたり，自分の思ったことを伝え合ったりする。	・友達のよさに気づき，協力して遊びを発展させる楽しさを味わう。 ・考えたことを相手にわかるように話し，言葉を伝え合う喜びを味わう。 ・生活の中の言葉や文字・記号に関心をもって，日常生活に取り入れて遊ぶ。
		・お辞儀をして，あいさつを交わす。 ・活動するグループを自分たちで決める。 ・当番活動を自分たちで進めようとする。 ・ごっこ遊びや表現遊びにおいて，自分のイメージを言葉で伝え合う。 ・自分の思いや考えを絵やお話で表現し，伝え合う。	・誰とでも気持ちよく，あいさつを交わす。 ・ルールが必要な遊びは，友達と話し合いをして遊びを進める。 ・言葉や文字を遊びに取り入れ，思いや考えを伝え合う。 ・自分達で話し合いをして，生活や遊びを進める。
みんなでかかわる活動	学級グループ	・運動遊び（かけっこ・リレー・綱引き・玉入れ・ドッヂボール・サッカー・縄跳び・竹馬） ・表現遊び（ごっこ遊び・歌やリズム遊び・劇遊び ・楽器遊び・手作りお話遊び（《絵本や紙芝居，ペープサート等》・しりとり等の言葉遊び）	・正月遊び（・かるた・すごろく・福笑い・コマまわし・たこあげ・はねつき） ・郵便ごっこ・言葉遊び（早口言葉や唱え言葉等） ・表現遊び ・運動遊び（竹馬・縄跳び・ボール遊び）
	園全体（行事等）	・祖父母参観・運動会・おまつりごっこ ・体育館活動（エイサー，競技・競走） ・秋の遠足・生活発表会・お楽しみ会 ・ジャガイモ栽培・花の苗植え	・豆まき・給食試食会・修了製作 ・１年生との交流（学校ごっこ） ・ジャガイモ収穫・カレーパーティー ・お別れ遠足・ひな祭り会・修了式
☆援助・配慮 ○環境構成		☆個々のイメージをまとめて実現できるよう援助し，自分達で取り組んだという充実感が味わえるようにする。 ☆子どもの気持ちに寄り添い，場面や機会をとらえ，内容によっては周囲の仲間に伝えたり，学級で考えたりする。 ○自分たちの考えで遊びや行事が取り組めるように，計画及び準備についての話し合いの場を設定する。	☆学級の中で一人一人のよさを認め合い，子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をする。 ☆個々のイメージを友達と共有しあえるように，じっくり話ができる時間をもつ。 ○生活の中で，必要に応じて文字や数字などを書き表して提示する。 ○生活に関係の深い情報に興味や関心が持てる機会をつくり，そこで得た感動を伝え合い，共感し合う場をもつ。
家庭との連携		・園での活動意味や考え方を理解してもらうとともに，保護者の意見も取り入れて，保護者と共に活動や行事を取り組む。	・子どもに伝達する力が育まれるように園生活に必要な物を自分で用意し，生活を自分でできるように園と家庭が協力する。

①指導計画の中の言葉

大越和孝らによる「保育内容『言葉』言葉とふれあい，言葉で育つ」において，「長期指導計画の具体的なねらいや内容を設定するためには，幼児の発達の特性をふまえ，特徴的な幼児の生活する姿から，2～3 年間の教育期間の幼児の発達の道筋を描いておく必要がある。また，その時期にふさわしい幼児の生活が保障されるために幼児の生活する姿を次のような視点でとらえ，幼児理解に努め計画されなければならない。」として，幼児の生活する姿をとらえる視点として，次の４項目をあげている。

ア幼児の生活する姿をとらえる視点

- 幼児の幼稚園生活への適応の様子
- 幼児の興味や関心の傾向
- 幼児の人間関係にかかわる様子
- 自然や季節などの周囲の状況の変化や行事などの影響

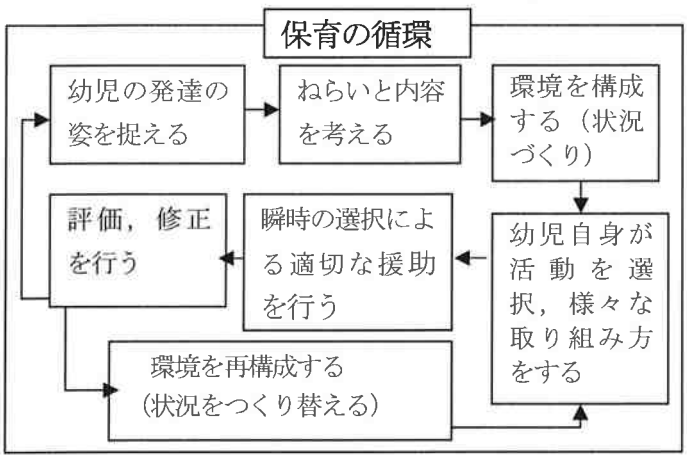
これらの幼児の生活する姿をとらえる視点とともに教師が言葉を育む環境作りをする上で，次の３つの柱についても取り上げている。

イ教師が作り上げる３つの柱

- 子どもに豊かな経験を準備する
- 子どもたちがリラックスして表現し合う保育の場をつくりあげる
- 子どもと共に遊ぶ中で言葉のおもしろさに気づかせる

ウ保育の循環

小川博久らによる「新幼稚園教育要領の解説」において，幼児の発達を受けた環境の構成，評価，環境の再構成等を全体として捉えて計画を作成することを「保育の循環」と呼び，年間を通して，発達に必要な経験ができるように，長期指導計画を作成する上での留意点としている。下図は阿部真知子氏が「保育の循環」を図示したものである。



以上のことを考慮して，幼児が心を動かし，自分から周囲の環境にかかわっていく状況が構成できるように年間指導計画立案のポイントとした。

②「伝え合う力」を育むための指導計画

（報告書９～１０ページ）

３　研究内容３

（１）伝え合う活動の工夫と援助

①言葉による伝え合いの育成

篠原孝子氏は（初等教育資料　2008 5 月）の「解説 1　幼稚園教育要領の改訂」で「言葉による伝え合いができるようになるために，思いを言葉で伝え，相手の話を理解できるようになることが大切である。幼児自らが相手の話に興味や関心をもち内容を理解したいという気持ちがもてるよう，教師が話を聴く場，視覚による教材などの工夫をすることが重要である」と述べている。「伝え合う力」を育てるための重要な活動として，「話す活動」，「聴く活動」を取り上げることができる。

ア話す活動

子どもの話す活動には，事実を伝えたり，思いを表現したり，意見を表明したりなどさまざまな内容がある。話す活動の状況も多様である。例えば，お弁当の場面で楽しく話していた子どもも，それがたとえ同じ内容であってもクラス全体の前で話すとなるとまったく話せなくなってしまうこともある。保育者はそのことをよく理解して話す活動を準備したり，子どもの話す活動を理解したりする必要がある。（保育用語辞典）

イ聴く活動

紙芝居や絵本のように視覚を手がかりに聴く活動や，本来聴く楽しみのために伝承されてきた昔話など，子どもにとって耳を傾けやすい題材を手がかりに，聴くことの楽しさを十分味わう中で，聴くことの意味にも気づけるようにしたい。就学前までの長期の見通しの中で，話し手や話す内容や場面（一人対一人や子ども対子どもなど）を変えながら，展開していくことが大切である。（保育用語辞典）

②「伝え合う力」を育むための援助

「話す活動」や「聴く活動」とともに，子どもなりの言葉を引き出し，伝え合いができるように，教師のかかわりとして次の３つの援助を大切にしたい。

ア　聴く援助

保育者が幼児の立場に立って，一人一人の気持ちを丁寧に汲みとり応答する援助のあり方の一つが「聴く援助」である。

幼児は自分の思いや願いに耳を傾け心をこめて聴いてくれるおとなの存在によって気持ちを安定させ心をのびのびと自分を表現するようになる。このことで幼児との信頼関係ができ，幼児の願いがみえたり，保育者と幼児の思いのズレに気づかされたり等，有用な効果をもたらす。（保育用語辞典）

イ　関係づける援助

人とのかかわりをひろげる，遊びと遊びをつなげる，ほかの場や状況の変化に着目させる等，幼児の生活を豊かにしていくために，保育者が意図的に，幼児同士の関係や場の関係，遊びの関係等をつなぐかかわりを「関係づける援助」という。その際，幼児が何かに集中し，これからどうしようとしているかという日々の状況を読みとることが重要であり，保育者のしいたレールにのせて関係づけた，という錯覚に陥らないよう留意すべきである。（保育用語辞典）

ウ　認める援助

幼児が自分で努力したこと，工夫したこと，葛藤や挫折を乗りこえたことなどをあたたかく受けとめ，ともによろこんだり励ましたりする援助のあり方をいう。幼児を認める時，単に「がんばった」とか「よくできた」といった表面的な認め方ではなく，その子の生活への取り組みの経過を細かくとらえ，どんなことを認めるのかを具体的に伝えることが必要である。また，保育者の気持ちを幼児に伝える表現力も豊かにしていく努力が望まれる。（保育用語辞典）

③人とのかかわりの中で育つ「伝え合う力」

「幼稚園生活の中で，互いに自分の感情や意思を伝え合いながら共に生活する楽しさや大切さを知り，共に生活するために必要な習慣や態度を身につけていくことが，人とかかわる力を育てることになる。」と小川博久らによる「新幼稚園教育要領の解説」に伝え合うことと人とかかわる力について述べられている。また，湯川秀樹氏（幼稚園じほう 2006.9 月）は，「言葉がはぐくむ幼児の関係性」において，「園，家庭，地域における幼児の言葉とのかかわり」について次のように捉えている。

「幼稚園，家庭，地域は，それぞれ幼児を取り巻く環境の要素が異なる。幼稚園は同年齢の子どもを中心として園の環境が構成されている。それは，家庭や地域における人々とのかかわりとは異なるものであり，幼児は幼稚園，家庭，地域という異なる環境のもとで，様々な人々とのかかわり合いを通して，言葉の世界に触れていくのである。

幼稚園では遊びの中での友達とのぶつかり合いや心の通うかかわりを通して，家庭とは異なる言語的な体験をしていく。また，地域においては園や家庭では得ることのできない人々とのかかわりや，伝統行事への参加を通して，幼児は多様な言葉と出合い，それが幼児の言葉の世界を開いていくのである。

こうして，幼児の言語生活は，異なる環境の中で，様々な人の思いや感情，物ごとの意味や役割，価値などに，言葉を介して触れることにより，豊かなものになっていく。

幼児一人一人が教師や友達の話に耳を傾けながら，幼児が生きた言葉で相互に思いを伝え合うことのできる関係をどう築くことができるかということであり，そうした響き合う関係を築くことが人間形成の基盤となるということである。」

4 月～7 月までの活動では，身近な人の捉えを教師や友達，家族とした。また，幼稚園生活において教師や友達とかかわることで心に感じた，その子なりの思いや考えを教師や友達に伝え合うことができるように，教師が子どもの表現を引き出し，認め，周りの友達に伝えていく援助をする。

同時に家庭でも家族とのかかわりの中で，子どもたちがたくさんの言葉にふれる機会をもてるように，幼稚園の絵本貸出の活動を「伝え合う力」を育むための一つの活動として取り組むことにした。

絵本を通して，家族との会話の中で子どもたちなりの伝え合いができるように，絵本貸出カードを家庭と幼稚園相互に活動報告や情報提供ができるような手立てとして活用した。また，家庭へのフィードバック及び子どもたちの園での活動の様子を知らせることで，家庭でも子どもたちの伝え合う力が育まれることを願い，学級通信『げんきぐみ』を発行した。

以上のことから，子どもなりの思いを言葉として引き出す上での配慮や表現する際にお互いの思いや

考えが認め合うことができるように活動の工夫や援助の仕方を考えた。

④　大勢の人の前でも話ができるための配慮と援助

ア友達や教師とかかわりながら考える

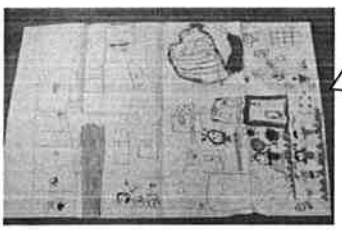
友達と会話を交わしながら，話を考えることで，お話づくりの活動を楽しむことができるようにする。また，友達や教師が活動に取り組む姿を見て，自分も同じようにやってみたいという意欲につなげる。その過程において，自分から表現したいという意欲が持てた時に体が動き始め，まねたりすることで相手の動きに応え，自分から新たな活動を始めることを引き出す。一人で悩みながら活動をするのではなく，遊びにおいて友達や教師と一緒に発見や気づきを楽しむことで「伝え合い」の活動へと展開する。

話を考える場面では，グループの友達と同じ場や場面を共有することで，まねてみたり，友達の提案を受けたりすることで，自分から考えてみようとする意欲へとつなげる。

イ話すことを考え，話の内容をイメージする

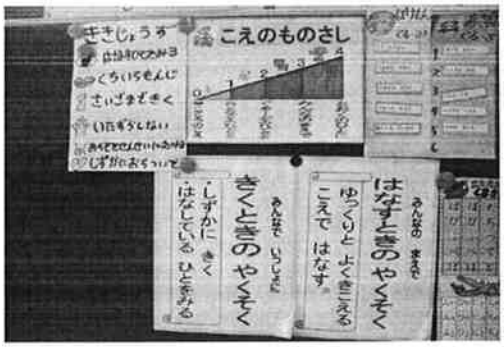
子どもたちが話す内容を考えやすいように活動を３つにわけ，意図的に教師が，（1）「自分の好きなことをニュースにしてみよう」（2）「発見ニュースを伝えよう」（3）「家族のことをニュースにしてみよう」とテーマを提示した。

【話の内容を考える】
- 子どもが考えた内容を言葉として表現できるように援助するために，絵で表現してもらう。
- 絵で表現した内容について，教師が子どもに問いかけをしながら，子どもの言葉を引き出す。
- 教師が聴いた子どもの言葉を順序だて，整理し会話を通して確認することで，大勢の人の前に立っても失敗せずに話ができるようにする。
- 絵で表現しづらい時は具体物を提示し，教師との会話を通して，伝えたいことを確認する。
- 子どもと教師だけでは，引き出せない言葉や表現方法を周りの友達にも考えてもらうことで，子どもなりの表現方法を引き出す。



ニュース画面と使用した家族を表現した絵
（公開検証保育時）

ウ学級全体で「伝え合う」場面での援助と配慮

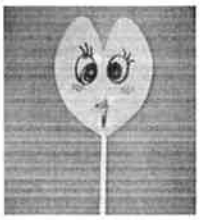


（ア）話をする側，話を聴く側の約束をすることで，学級全体で話をしたり，話を聴いたりするマナーを守ることができるようにする

【話すときの約束】
- ゆっくりとよく聴こえる声で話す

【聴く時の約束】
- 静かに聴く・話している人を見る

【声のものさし】
- 話をする時，相談する時の声の大きさを意識する



ピンクのハート

幼児期の思考の一特徴で，命のない事物を，あたかも命があり，意志があるかのように，擬人化して考える傾向「アニミズム」を念頭におき，これらの約束を心から受けとめることができるように，『ピンクのハートちゃん』というペープサートのキャラクター教材を利用して，楽しく伝えることができるように考慮した。

（イ）「伝え合う」活動展開時の配慮と援助

【話をする側への配慮】
- 安心して話ができるように，教師が子どもに心と体で寄り添う。
- 教師がインタービュアーになり，質問をすることで，子ども自身が考えた話を言葉として引き出す。
- 子どもなりにうまく表現できたところを教師が認め，表現のよさを聴く側へわかりやすく伝えることで，話をした子の自信へとつなげる。

【話を聴く側への配慮】
- 話を一生懸命聴こうとする姿を認め，教師が頑張っている子の姿を周りの友達に伝える。
- 発表者の話の中にその子なりの思いや気づきを，言葉として表現できた時に，教師は認めたり，褒めたりしながら学級全体が共感できるように伝える。

Ⅶ　指導の実際

1　活動計画

（1）「自分の好きなことをニュースにしてみよう」

回	月　　日	ねらい	活動内容◆全体◇グループ	援助の視点
♡	5月28日	学級通信発行	・家庭との連携	・絵本貸出時の協力願い及び活動目標についてのお知らせ
1	5月28日（水）	○イメージしたことを伝える楽しさを味わう。	◆お天気ジャンケンをする。 ◆絵本『くものこどもたち』 ◆ニュースについてのイメージを発表する。	・天気の話題をきっかけにニュースについてのイメージを，言葉の表現として引き出せるようにする。
2	5月29日（木）	○友達とかかわりながら，遊びを楽しむ。	◆お天気ジャンケンをする。 ◆ニュースの作り方について話合う。 ◆絵本『ともだち』をみる。 ◆「あくしゅでこんにちは」	・友達と仲よく活動する楽しさを伝える。 ・握手をする動作により，友達との触れ合いを実感してもらう。
3	5月30日（金）	○友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わう。	◆うた遊び「あなたのおなまえは」をする。 ◆絵本『なまえおぼえたよ』 ◆グループ分けをする。 ◇グループの名前を決める。	・うた遊びや絵本の読み聴かせを通して，友だちの名前を覚えてもらう。 ・教師も話合いに参加し意見がまとまるように援助する。 ☆ソシオメトリックを活用したグループ編成
♡	6月2日	学級通信発行	・家庭との連携	・読み聴かせ活動の紹介及び6月のがんばり言葉のお知らせ
4	6月2日（月）	○話合いを通して，友達とのかかわりを楽しむ。	◆『びっくりテレビはきょうもニュース』の本を見たり聴いたりする。 ◆うた遊び「あなたのおなまえは」をする。 ◇グループでニュースの名前の案を考える。	・ニュースの内容についてイメージを持てるようにする。 ・楽しいニュースの名前にしたいとイメージを伝える。男女間で意見がまとまりづらいので各グループ2つの名前の案をだしてもらう。
5	6月3日（火）	○友達と考えを出し合いながら遊びを進める。	◆ニュースの名前を決める。 ◇ニュース作り。 （ニュースの内容を考える） ・ぽけもんグループ ・あさがおグループ	・ニュース名を見せ，読みあげて紹介し，選べるようにする。 ・意見が対立した時は，教師が提案し意見を調整する。 ・安心して話ができるように，話の内容を絵に描いて考えをまとめてもらう。（※1） ・話す内容を教師が聴いて絵のそばに記録し，話ができなかった時に教師が紹介し，援助できるようにする。（※2）
6	6月4日（水）	○友達の話を聴いて，気づいたことを伝えたり表現したりする。	◆第1回目 ぽけもんニュースの時間 （話す・聴く・参加する） ・うたのコーナー （くるっくるっくるっ） ・ぽけもんグループのニュース ・あさがおグループのニュース	・子どもが考えた話がスムーズに言葉として表現できるように教師が司会者になり質問形式で発表者に話を聴く。頑張ったことを紹介し，自信がもてるようにする。（※3） ・話を聴く側の疑問や質問も受け，考えの伝え合いができるように配慮する。（※4）

回	月　　日	ねらい	活動内容◆全体◇グループ	援助の視点
7 8	6月 5・6日 （木・金）	○自分なりの目標を持って，ニュースの時間を楽しむ。 ○ピンクの言葉について考える。	6日◆お楽しみコーナー・うた（おおきなくまのいえのまえ） ・マジック・プレゼント ◇ニュース作り。 （ニュースの内容を考える） ・りんごグループ ・うさぎグループ	・学級の友達と活動を楽しむ事ができるようにする。 ・※1と※2に同じ ・話をすることに消極的な思いを抱いている子が楽しくお話づくりができるように，褒めたり励ましたりする。
			9日◆第2回目 ぽけもんニュースの時間 （話す・聴く・参加する） ・りんごグループのニュース ・お楽しみのコーナー（うた：ごんべさんの赤ちゃんウルトラマンバージョン） ・うさぎグループのニュース ◆ピンクのハートことばの話を聴く。	・※3と※4に同じ ・話を聴く時の約束をする。 ・静かに聴く ・話している人を見る ・ピンクのハートで聴く ・ニュースの間にコーナーを作り活動を盛り上げる。 ・Mさんのピンク言葉を紹介し，優しい言葉や素敵な言葉を意識できるようにする。
9 10	6月 9・10日 （月・火）	○自分なりの目標を持って，ニュースの時間を楽しむ。 ○話している人を見て，話を聴く。	9日◆お楽しみコーナー ・エプロンシアター ◇ニュース作り。（考える） ・ぶどうグループ・へびグループ	・学級の友達と一緒に活動を楽しむ事ができるようにする。 ・※1と※2に同じ
			10日◆第3回目 ぽけもんニュースの時間 （話す・聴く・参加する） ・ぶどうグループのニュース ・お楽しみのコーナー （発見コーナー，絵本クイズ） ・へびグループのニュース	・※3と※4に同じ ・見つけたことや発見したことを伝え，友達の発見に共感する。新たな発見につながるように，呼びかけたり，掲示したりする。
♡	6月10日	学級通信発行	・家庭との連携	・活動報告及びピンク言葉の紹介，読み聴かせについて

（2）「発見ニュースを伝えよう」

11	6月11日 （水）	○好きな遊びを見つけ，友達と思いきり遊ぶ。	◇遊びのなかで，発見を楽しむ。 ◆ぽけもん発見ニュース 発見したことを話したり，見せたりする。	・遊びで，感じたことや考えたことについて教師と会話を交し，言葉として表現をまとめ，友達に発見の喜びを伝えることができるように援助する。
12 13 14	6月 16・17・18 （月・火・水）	○身近な自然や遊びから，気づいたことや感じたことを伝え合う。	◇記者ごっこに挑戦する。 ◆ぽけもん発見ニュース 遊びで発見したことを話したり，見せたりする。 ◆お楽しみコーナー：友だちの発表（歌やなぞなぞ，作品等）を楽しむ。	・取材活動の間，園活動では，教師も遊びにかかわり発見探しに取り組む。 ・友達と言葉遊びを楽しむ。 ・ニュース作りで，子どもに記者になって，家族に話を聴いてもらう。話を聴く事ができるように取材カードを作る。
♡	6月17日	学級通信発行	・家庭との連携	・活動報告及記者ごっこへの協力依頼，読み聴かせについて

（３）「家族のことをニュースにしてみよう」

回	月　　日	ねらい	活動内容◆全体◇グループ	援助の視点
１５ １６	6月 24・25日 （火・水）	○ニュースのイメージを絵で表現する。	◆ニュース作り。（考える） ・学級一斉に取り組む ◇グループの友達と自分の家族の絵を描く。 ◇取材カードを参考にして家族ニュースの話を考える。	・教師が取材カードを参考にし，絵を描きながら子どもと会話をしてニュースとして話す言葉を記録する。一緒に活動している友達との会話を楽しみながら活動に取り組むことができるようにする。
♡	6月25日	学級通信	・家庭との連携	・活動報告及び取材活動へのお礼，読み聴かせについて
１７	6月27日 （金）	○自分なりの目標を持って，ニュースの時間を楽しむ。 ○最後まで，友達の話を聴く。	◆第４回目 ぽけもんニュースの時間 （話す・聴く・参加する） ・へびグループのニュース ・お楽しみのコーナー （発見コーナー，リクエスト活動，ピンクのハートことば紹介など） ・ぶどうグループのニュース	※5 話す時の約束，聴く時の約束を学級全体で確認する。 ・お楽しみコーナーへの参加者は，募集し決めておく。教師も，学級で楽しめる活動を準備する。 ・話ができるように励まし，教師がその子に合った言葉かけをし，表現を引き出せるようにする。
１８	6月３０日 （月）	○自分なりの目標を持って，ニュースの時間を楽しむ。 ○質問や疑問に応答する。	◆第５回目 ぽけもんニュースの時間 （話す・聴く・参加する） ・うさぎグループのニュース ・お楽しみのコーナー （発見コーナー，リクエスト活動，ピンクのハートことば紹介など） ・りんごグループのニュース	※５に同じ ・お楽しみのコーナーで活動に変化をつけ，ニュースの時間を楽しく過ごせるような雰囲気づくりをする。
１９	7月１日 （火） 公開検証保育	○自分なりの目標を持って，ニュースの時間を楽しむ。 ○勇気を出して，みんなの前で発表する。	◆第６回目 ぽけもんニュースの時間 （話す・聴く・参加する） ・あさがおグループのニュース ・お楽しみのコーナー （発見コーナー，リクエスト活動） ・ぽけもんグループのニュース	※５に同じ ・活動最後に一人一人の頑張りを認め達成感を味わうことができるようにし，次の活動への自信につなげる。
♡	7月２日	学級通信	・家庭との連携	・活動報告及び検証保育終了のお知らせ，協力へのお礼 今後の活動について

２ 活動の概要

（１）「自分の好きなことをニュースにしてみよう」【第１時～第１０時】

教師の思い

♡みんなの前で自信をもって話ができるように，楽しい雰囲気が味わえる活動を設定したい。

♡友達や先生とかかわり活動することで，思いや考えが伝わる喜びを感じてほしい。

♡友達の話に心と耳を傾けて，話を聴く楽しさを味わってほしい。

大勢の人前でも自信をもって話ができるように，ニュースの時間として活動を設定した。また，楽しくニュースの話を考えて発表できるように，友達とのかかわりを持たせながら活動を展開することにした。

【第１時】 天気についての話題から「ニュース」という言葉やイメージを引き出す

・手遊びうた：「お天気ジャンケン」をして教師や友達と楽しく遊ぶ。

♪今日のお天気どんなかな？
パーと晴れたらいい天気
グングンでてきた黒い雲
チョッピリ雨も降ってきた
お天気　お天気　ジャンケンポン♪

※歌詞から天気についての言葉を知る

・絵本『くものこどもたち』を読み聴かせ

教師：「お話の中で，どんな天気がありましたか？」

子ども：「くもり」「くも」「よる」「たいよう」「ゆうがた」「にじ」「いいてんき」「かぜ」「あめ」「かみなり」「たいふう」「あさ」

学級のみんなで天気の話題から「ニュース」について考える

教師：「今日の天気はどこを見るとわかりますか？」
子ども：（首をかしげる）
教師：（窓から見える空を指さす）
子ども：「そら」
教師：「クイズです。今日の天気は空を見るとわかるけど，明日の天気は何を見るとわかりますか？」
子ども：「テレビ」「ニュース」「天気予報」
教師：「知りたいことはニュースとして，みんなに伝わってきますね。今日はK子さんが教えたいことがあるそうです。お父さんに教えてもらった歌だそうです。これは２組のニュースですね。みんなもK子さんのようにニュースになるお話を考えてみようね。それでは，K子さんどうぞ」　**→にゅうす第１号になりまし**

お父さんに書いてもらった歌詞をみながら友達に歌を教えているK子さん

教師の援助

☆「お天気ジャンケン」や絵本『くものこどもたち』の天気の話題から「ニュース」という言葉を引き出す。

☆遊びの中で取り組んでいたK子さんの活動をニュースとしてとりあげることで，これからの活動のイメージへとつなげる。

【第２～４時】 入園１ヶ月後の子どもの姿

・自己主張を通そうとして，集団活動への参加ができない。集団での活動が始まると「やりたくない」「みておく」等の言葉が出る。同時に頭が痛いと泣き出したり，集団から離れ絵本を見たり，いたずらをしたり等の姿が見られる。

そこで，友達とのかかわりをもち，集団活動に参加できるようにソシオメトリックテストの結果を考慮してグループ編成を教師が行った。「ニュース」の時間の活動の準備段階として，友達とかかわる楽しさを味わう活動を取り入れた。

グループや学級の友達と仲良くなろう！

・友達についての絵本をみる

・うた遊び『あくしゅでこんにちは』『なまえおぼえたよ』（友達と握手をしたり，替え歌で自分の名前を紹介したりする）

※集団での遊びに参加することが難しい子（６名）を意識して，教師と一緒に遊びの中心にした。他の子たちから「やりたい」と言われると，「いやいや」参加していた姿から，笑顔で活動する姿へと変わっていた。

※意見のぶつかり合いはあったが，話合いをして各グループの名前を決めることができた。

【第５～１０時】

ぽけもんにゅうす①：自分の好きなことについての話をする

☆ニュースにするお話の作り方と発表の仕方☆

○ぽけもん○あさがお○りんご○うさぎ○ぶどう○へび

6つのグループを２グループずつに分け活動に取り組む。

第5～6時：ぽけもんとあさがおグループのお話作りと発表

第7～8時：りんごとうさぎグループのお話作りと発表

第9～10時：ぶどうとへびグループのお話作りと発表

～お話の作り方～

①みんなにお話したいこと（自分の好きなこと）を考える。

②お絵描き帳に考えた話を描く。

③絵について子どもから教師が話を聴いてまとめ，絵を描いた余白にメモを取る。

発表

写真

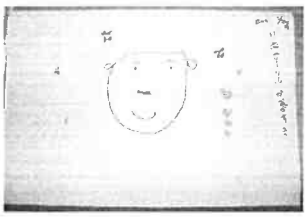
教師の援助

教師が聴き取った内容を子どもが自分の言葉として表現できるように，教師がインタビュアーになり，話を引き出し，描いた絵を見せながら，ニュースとして発表できた姿

ぽけもんにゅうす①
子どもの姿

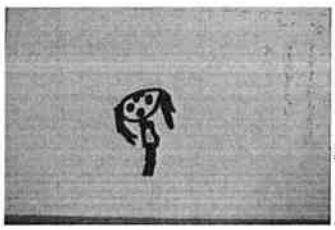
表現活動における子どもの姿のみとり

・みんなの前で話をするのが怖いと泣いてしまったH子



他のグループの子が発表する様子を見て，話をするのが怖いと泣き出してしまったH子。話の内容を前もって準備することで，教師の励ましにも応え，笑顔でニュースの話ができた。

・座っていることができないR子



学級全員が集まる場面で，教室になかなか戻れないR子。自分の座る場所に来ても，立って自分のやりたいことをしてしまう。友達とのかかわりもK子としかなく，教師の言葉かけにも2～3の単語で応答する。同じグループの子たちと教師との会話のやりとりを近くにいて聴きながら，7枚目の作品でR子が納得する絵を描くことができた。発表の場面では，教師に援助されみんなの前に立って自分の描いた絵を見せることができた。

・おとなしい性格のM子とY子

教師に「おはなしわかんない」と話すM子の隣でうなずくだけのY子だった。そこで教師が「一人で考えてもわからない時には，二人で考えてみるといいよ」と提案すると，ひそひそ相談をして，海に住む生き物について話を考えて表現していた。二人とも発表の場面では，描いた絵の中で一番好きなものについて話していた。

A	・意欲的に表現できる
教師の援助	・その子なりの表現の良さを紹介する。 ・インタビュアーとしての教師の質問は必要最小限で行い，できる限り子ども自身の言葉で表現できるようにする。
B	・教師の励ましに応えながら表現できる
教師の援助	・勇気を出してみんなの前で話している頑張りを認める。 ・教師に話した内容を一つでも多く自分の言葉として表現できるような質問をして，言葉を引き出す。
C	・大勢の人の前に立ち，自分の名前を言うことができる ・教師や気の合う友達に話ができる
教師の援助	・緊張している気持ちをもちつつも，教師のそばに一人で立ち，名前を言うことができたことを認める。 ・考えたニュースの話を教師がみんなに伝えながらその子の頑張った姿を認める。
D	・グループの友達と一緒に，みんなの前に出ることができる
教師の援助	・話を考える，絵を描く，みんなの前に立つ等，小さなことでもその子なりに頑張って行動した姿を認め，褒めることで次の活動へ頑張ろうとする意欲へとつなげる。

学級通信「げんきぐみ」の発行第１号～第６号

教師の思い：言葉を豊かに育むためには，身近な人とかかわる中で，幼児の生活が広がり深まる必要がある。幼稚園と家庭が幼児にとって連続した生活の場面となるように，学級通信を発行して幼児が幼稚園で生活する姿や指導の方向性について保護者に伝える。また活動では，自分なりの言葉で話す喜びを味わうことを十分に経験させたいと思う一方で，素敵な言葉に出会う機会も多くもたせたい。絵本についての情報提供や各家庭での読み聴かせの様子を紹介することで，家庭においても絵本を通して多くの素敵な言葉に出会ってほしいと願い，学級通信を発行した。

学級通信

学級通信を活用して，次の項目を中心に家庭へのお知らせをした。

○言葉で表現する活動内容を中心に，幼稚園での子どもたちの生活の様子

○言葉を育てるために，幼稚園と家庭が連携して取り組む活動への協力願い

○絵本貸出カードに記入してもらった家庭での読み聴かせの様子の紹介やおすすめ絵本の情報提供

○子どもたちのキラッと輝く活動や表現等の紹介

【絵本貸出カード】

家庭での読み聴かせの様子を記入してもらい，幼稚園と家庭が連携して子どもの言葉を育てる。

（２）「発見ニュースを伝えよう」【第１１時～第１４時】

ぽけもんにゅうす②：遊びの中で考えたこと，見つけたことや友達や先生に教えたいこと，伝えたいこと等を自分の言葉でニュースにして話そう

教師の援助と遊びへのかかわり

・おしゃべりを通しての子どもたちの気づきや遊びの中での子どもたちなりの考えや工夫点を教師がみとる。

⇩

・遊びの工夫点や発見したこと等やみんなに伝えたいことを，教師と会話を交わしながら言葉として確認する。

⇩

・発見ニュースとして発表することを子どもに促す。

子どもの変容

ニュースの時間の回数を重ねることで，教師に話を聴いてもらいたい，みんなに自分の話をしたいという意欲の高まりがみられた。

「～の話ニュースの時間にはなしてもいい？」

「こんなの（セミや虫等）見つけたから（と話しながら教師に実物を見せ）みんなにみせたい」

「１００まで数えることできるからやってもいい？」

「ペットボトルのふたで合奏できるよ」・・・と毎回話題が増え，友達と一緒に発表する姿も見られた。

【掲示物の工夫】

「ニュースの時間」だけの話（その場限りの発表）で終わってしまうことがもったいない話の内容ばかりだったので，話が終わったあとに教師が記録した話を文字（ひらがな）で表し，写真と一緒に新聞をイメージして掲示した。

掲示物を見て，文字が読める子は友達に読んであげたり，自分の話も掲示して欲しいからニュースの時間に話をしたいと教師に頼んだりする姿が見られるようになった。

6がつ11にち　すいようび
はっけん　だい3ごう

せんせいたちが
いっぱい　えほん
みてねって！
（なまえ）

みてもいいけど　ちゃん
とおいているばしょに
もどしてねって！
（なまえ）

写真

一人だと話すことができなかったけど，二人で一緒にみつけた絵本コーナーのことは，話すことができた。

6がつ11にち　すいようび
はっけん　だい5ごう

写真

りゅうすけさんの
あさがおのはなみて
いろが　ちがうよ
（なまえ）

せんせい　りのんの
あさがお　さいたよ
おおきな　おはなだよ
（なまえ）

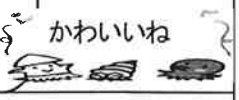
写真

話をすることは緊張するけど，自分がみつけたことは，自信をもってみんなに伝えることができた。

6がつ17にち　すいようび
はっけん　だい11ごう

写真

すなばのちかくで
やまを　つくっている
ときに　かわいい
かいがらを　みつけよ。
（なまえ）



みんなの前でお話はできなかったけど，二人で一緒に先生に笑顔で発見したことを話すことができた。

お楽しみのコーナーの誕生！

ぽけもんニュースの時間の話の合間に「クジラとサメの絵を描いたから見せたい」「ペットボトルのふたを手につけたら演奏ができるからやってもいい」と子ども達から提案があり，実演してもらう。

写真

写真

～子どもなりの表現活動をきっかけに～

「うたを歌いたい」「クイズの問題だしたい」「作ったロボットみせたい」等々，たくさんのやりたいことが次々とでてきた。

学級でどのように取り組むかについて話し合いをする

〈子どもの言葉〉	〈教師の援助〉
「先生に話してからニュースの時間にやる」 「練習してからやる」「順番決めてやる」	☆ぽけもんニュースの時間でやることを伝え，楽しく真剣にやることを約束し，やり方を考えさせる。
「うたのコーナー」「みんなのコーナー」 「おたのしみのコーナー」「じまんのコーナー」 「はっぴょうかいのコーナー」	☆ぽけもんニュースの時間の中で，「みんなのやりたいことは何のコーナーにしたい？」と問いかけ，子どもたちなりの表現活動の位置づけをさせる。

提案された５つの名前から楽しいからという理由と多数決でコーナーの名前は
『おたのしみのこおなあ』
と決まり，話合いで考えたやり方が「お楽しみのコーナー」で活動する時のルールになった。

（3）「家族のことをニュースにしてみよう」【第１５時～第１９時】

ぽけもんにゅうす③：家族のお話をして，学級のみんなに自分の家族を知ってもらおう

☆ニュースにするお話の作り方と発表の仕方☆

〇ぽけもん〇あさがお〇りんご〇うさぎ〇ぶどう〇へび

の各グループで一つのテレビ画面を製作し，教師の質問に答えながら一人ずつ発表する。

～お話の作り方～

①「記者ごっこカード」を家に持ち帰り，家族と一緒に話をしながら話の内容を記入してもらう。（6/16～6/20）

②ニュースからテレビ画面の作製をする。

（１枚の大きな模造紙に各グループの家と家族を描くことで，ひとつの町を表現してもらう）

③描いてもらった絵と「記者ごっこカード」をみながら，教師と会話をしてみんなに話す内容をまとめて確認する。

ぽけもんにゅうす①の「自分の好きなことについての話」で多かった話題が「家族」についてであった。（７人）

（話題の導入として伝えて質問をする）

⇩

教師：「みんなが上手にできるお話をぽけもんにゅうすにしてみよう。どんなおはなしがしたいですか？」

子ども：「ぽけもん」「ともだち」「せんせい」「あそぶこと」「かぞく」

教師：「考えた話の中で，いっぱい話ができて，男の子も女の子もみんなができる話にしようね」

⇩

“かぞくのはなし”に決

※これまでの話し合いでは，何かを決めようとすると反対意見ばかりで，教師が何度も提案を繰り返して決めていた。反対や否定意見が多かった子どもたちの言葉だったが，にゅうす③の話題を考える場面では，みんなができることを自分の意見として言うことができていた。相手の立場にたった意見が多く出てきたので，スムーズに決めることができた。

友達とのかかわりの中で変容した子どもの姿

〇R男・・・グループの友達が模造紙に向かい，自分の家族の話をしながら絵を描きだすと，はじめは友達の様子を見ているだけのR男だった。友達と自分のお母さんの話をしている途中で，自分のクレヨンをとってきて座りしばらく会話を楽しむ。その後白いクレヨンを取り出して描きはじめる。白い絵を見て友達に「R男見えないよ」と言われ「描いているからいいよ」と応え近くで見ていた教師を見つめていたので，「頑張って描いているね，すごいね，お母さんかわいい色のお洋服着ていた方がうれしいはずね」と教師がグループの友達に話すのを聴いてR男は，黒，赤，青の３色を使って，自分の家とお母さんの絵を描いた。

⇩

♡R男がはじめて活動に参加することができた場面になった　♡

R男は，自分の描いた絵をみせるために，発表の時に自分から前に出てきて教師の側に立つことができた。R男の家族の話を教師が紹介すると笑顔で聴いていた。

写真

・グループで会話を交わしながら，ニュースのテレビ画面を製作している様子。

・絵を描く場所も相談しながら，自分たちで決めていた。

友達と力を合わせることができるようになった姿

大きな模造紙の片付けを頑張っていたH男。一人でできなくて困っている時に，N男が手伝い，二人で力を合わせてきれいに自分たちの製作したテレビ画面を片付けることができた様子。

写真

3　公開検証保育

公開検証保育指導案

平成20年度7月1日（火）
沖縄市立宮里幼稚園　　2組
男児17名　女児14名計３１名
保育者　古謝百合子

⑴　活動名　　「ぽけもんニュースの時間」

⑵　活動設定の理由

①　教材観

幼児は，心を通わせることのできる温かな信頼関係のなかで遊ぶことにより，自分の思いを自覚する。また，友達や先生に表現して伝え合うことで，互いがともにかかわりながら成長することができる。このような子どもが安心できるかかわりの中で，よりよい成長を図るために子どもが教師とお互いにかかわりながら，自分の考えを話す，友達や先生の話を聴く，話を聴いて受けとめ，共感し，伝え合うことを楽しむ場「ぽけもんニュースの時間」を設定した。

これまで，大勢の人の前で自分の考えた話をする活動や遊びを通して発見したことを話す活動等に取り組んできた。さらに，本活動において「記者ごっこ」で予め家族に聴いた話を自分の言葉で紹介する活動へと展開することで，友達の家族の話を聴いたり，自分のイメージを相手に伝わるように話したりできるようにする。また，うまく伝えられない場面があっても教師や友達の援助や協力により，認められながら伝え合うことの楽しさを経験することで，言葉による表現を豊かにすることができるであろうと考える。

②　幼児観

幼稚園という新たな環境で集団生活をスタートさせた子どもたちは，友達や先生との関係が不安定で，言葉を交わそうとすると緊張したり，思い通りに話せず黙ったりしてしまう場面が多くみられた。また，学級の様子も自分の思いばかりを主張し，相手の話を聴こうとする態度が育っておらず，トラブルが起きても解決策を考えることさえできない状態にあった。

そこで，子どもたちが自分の思いや考えを伝え合うことができるような基盤づくりが重要である。そのために先生や友達との間に，安心して話ができる雰囲気づくりや話したことを相手に聴いてもらえるという信頼感をもてるような支援が必要であると考える。

③　指導観

自分なりに思ったことや考えたことを絵で表現させたり，教師が聴き手となり子どもに言葉として表現させたりすることで，伝え合う喜びが味わえるような活動として展開したい。

さらに，優しい気持ち（ピンクのハート）で友達の話を聴くことの大切さを伝えることで，友達の気持ちに共感し，　話を聴く態度を育み，　お互いが信頼し合える温かな関係を育てたい。

指　導　案

平成20年7月1日（火）

幼児の姿	「ぽけもんニュースの時間」も6回目になり，自分なりに頑張ってみようと意欲的に活動に取り組んでいる。友達の話を聴いて，疑問に感じた事を聴いてみたいという思いが出てきた。人前で話すことが苦手な子も教師や友達の援助に支えられ，その子なりに頑張る姿がみられる。		
ねらい	思ったことや考えたことを言葉で表現することを楽しむ。	内容	・聴いたり，考えたりしたことを学級で話す。 ・興味をもって楽しく，友達の話を聴く。 ・自分の思いを伝え合い，言葉のやりとりを楽しむ。
活動仮説	・ニュースを話す場において，その子なりの表現のよさを教師が認め子どもたちに伝えることにより，思いや考えを工夫して伝え合う気持ちが高まるであろう。		

時間	○予想される幼児の活動	☆教師の援助　◇環境構成
9：20	○「ニュースの時間」の準備をする。	☆教師と一緒に活動に必要なものや会場の準備（ニューススタジオ作り）をしながら，「ニュースの時間」に参加することへの期待がもてるようにする。
9：30	○「ニュースの時間」に参加する時の約束を確認する。 話す時の約束 ・ゆっくりとよく聴こえる声で話す 聴く時の約束 ・静かに聴く ・話している人を見る	◇ニュースの時間の名前『ぽけもんにゅうすのじかん』と「ぷろぐらむ」を掲示する。 ◇楽しんでニュースの時間に参加できるように，話す時の約束，聴く時の約束を文字で表し提示しながら，確認する。 ☆ピンクのハート（優しい気持ち）で話をしたり，話を聴いたりすることを忘れないようにペープサートを使用して子どもたちに教師の願いを伝える。 ◇ニュースの時間の雰囲気を盛り上げるために，話をするグループが準備する間にテーマ曲をかける。
9:40	○ニュースを話すグループは準備をする。 ○「ぽけもんニュースの時間」に参加する。	☆発表者が安心感をもてるよう教師が司会者になり，絵や記者ごっこカードを用いて，話を引き出せるよう援助する。 ☆言葉が出てこない場合には，教師が子どもの頑張った姿を伝え，その子なりの頑張りを認めることで次の活動へつなげる。 ☆話を聴く側の思いや考えも言葉として表現させ，うまく伝わらない場合は，子どもたちの思いを教師の言葉で補うことにより，伝え合いの場面が出てくるよう配慮する。活動時間が長くなってしまわないように，話し合いの内容にも配慮する。 ☆ピンクのハートやピンク言葉を意識しながら，ニュースの時間をふり返り，子どもたちなりの素敵な表現を認めることで，満足感を味わわせる。 ☆「みんなの発見，楽しみにしているからね」と言葉かけをし，伝え合う楽しさにつながるように，期待を持たせる。
9:45	・プログラム 1はじめのあいさつ 2にゅうす① あさがおぐるうぷ 3おたのしみのこおなあ 4にゅうす② ぽけもんぐるうぷ 5今日のぽけもんにゅうすについてのかんそう	
10:30		

評価	・工夫して思いや考えを言葉で伝え合うことができたか。（観察）

公開検証保育の様子

①「ニュースの時間」に参加する約束を確認する

写真

あいさつを交わす心地よさを感じ，活動のけじめを意識する大切さを学び合う。

活動の始まりと終わりの時刻を，時計の図と文字で提示し，プログラムを見ながら活動の内容確認をする。

写真

写真

『ピンクのハートちゃん』のペープサートを利用して，約束事を楽しく受けとめる。

写真

プログラムで，文字を教師が示して説明することで文字に興味をもたせる。（指さしをして文字をおっている姿が見られる）

子どもたちが，約束をいつでも確認できるように，またイメージしやすいように文字や絵を利用して掲示する。

②あさがおグループのニュース

写真

テレビの画面を想定し，描いた家族の絵から話の内容をイメージしながら発表する姿。

写真

『記者ごっこ』に家族や教師と一緒に取り組むことで，話す内容を考え整理した。教師が記者ごっこカードを参考に，子どもの伝えたい内容をインタビュアーとして引き出す。

写真

・緊張のため泣き出してしまった子の話をしたいという気持ちを教師が心と体で受けとめ，寄り添い励ますことで，自信をもって自分の話ができた姿。

・初めて聴く言葉や難しい言葉などは，文字を使って提示することで，子どもたちの言葉の理解を促す。

写真

③お楽しみの時間（子どもの提案から展開した活動）

写真

写真

（子どもの提案から展開した活動）
ぽけもんニュースの時間を展開する中で，子ども達からみんなに話したいことや見せたい物があるという要望から，この活動をぽけもんニュースの時間の中の「お楽しみの時間」と設定した。「お楽しみの時間」をきっかけに積極的にみんなの前で表現しようとする子が増えた。
公開検証保育時において，「プログラムに表示された文字から自分の名前を発見した話」「手話ソング：緑の風と青い空」「捕まえてきたセミを見せた子」等子ども達なりの表現ができるようになった姿。

④活動の感想と終わりのあいさつ

写真

ニュースの時間の感想を話し，活動の振り返りをする「海にいきたいです」と発表者の男の子の話を受けての感想を話す姿。

写真

終りのあいさつを希望者にやってもらい，大勢の人の前に立つことに慣れてもらう。
「これで終ります」を「これから終わります」と間違える場面もあったが，正しい言葉の使い方を学ぶ場面になった。

4　公開検証保育および授業研究会

活動仮説
ニュースを話す場において，その子なりの表現のよさを教師が認め子どもたちに伝えることにより，思いや考えを工夫して伝え合うことができるであろう。

（1）　検証保育の経過

・ピンクのハート（ペープサートのキャラクター）で確認した活動の約束を，子どもたちなりに守り，活動に参加していた。だが，活動時間が長くなり集中力が途切れてしまい，活動後半は話を聴く約束を守ることのできない子が多かった。
・「活動が始まるよ」という教師の呼びかけで，自分の教室に入り活動の準備を進んで行い，活動の始まりを静かに待てるようになった。
・興味をもって友達の話を聴くことで，友達に話を聴きたいと思う気持ちが高まり，手を挙げて話し手に質問する姿が見られた。
・自分が考えた話の内容をインタビュアーの教師の質問をきっかけに，自分の描いた絵を見て思い出しながら話をすることができた。
・教師に援助され緊張しながらも，その子なりに頑張って話をすることができた。
・「お楽しみの時間」に参加したい子たちが中心となり，何をどんなふうに発表するかという話合いを活発にするようになった。時には，意見の食い違いもあったが，お互いの思いや考えを伝え合い，納得できるまで，言葉を交わして意見の調整をすることができるようになった。
・教師と一緒に，ホワイトボードを利用したテレビ画面の準備や片付けを積極的に手伝う姿が見られた。
・話を考えたり，絵を描いたりする活動では，まだグループの友達と協力して何かを考えたり作ったりすることはできなかった。しかし，友達の色塗りを手伝ってあげたり，アドバイスをしたり，また友達の絵を参考にしながら自分の絵に取り組むなど徐々に友達とのかかわりが増えた。
・テレビの画面を片付ける場面では，１枚のとりのこ用紙が大きくて一人での片付けが難しかった。近くにいた友達が一人で片付けをしていて困っている様子を見て，一緒に協力して片づけに取り組む姿が見られた。その様子を見た他のグループも同じように協力して，自分たちのテレビの画面を破らないように気をつけながら丁寧に片付ける姿

が見られた。

（２）　授業研究会から

・話をまとめて，みんなの前で発表することは，とてもすごいことだと思う。話のイメージを絵で表現し，時が経っても絵を見て話を思い出すことで，話ができていた。
・子どもたちは，自分にかかわるものにとても興味をもっていた。文字にしても自分の名前をプログラムの中に見つけ，友達に嬉しそうに話す姿が見られ，学級全体の場面では見ることのできない，伝え合う姿を見ることができた。
・「表現のよさを教師が認め子どもたちに伝える」という授業仮説を教師の手立てとして，捉えることが難しかったのではないか。「よさを認める」というよりは，教師がインタビュアーとして子どもたちの言葉を引き出し，伝えることが教師の手立てになった。
・「丸いのなんねー？」と質問した子どもの言葉を，教師が答える側の子どもに「丸いのなんですか？」と伝え直すことで，良い表現の仕方を学ぶ機会になる。また，「～です」と良い表現の仕方で話すことができた子を教師が認め伝えて欲しい。
・話を聴く時の約束に話をしている人に自分の体を向ける等，話を聴く時の姿勢も入れるとよいのではないか。
・子どもたちの言葉は，活動の場面で友達の言葉に触発されるものなので，教師が子どもの発言の動機を理解し，伝えるとよいのではないか。
・話を聴く側の後ろの子どもたちも教師の言葉かけに反応し，活動に参加していた。
・「思いや考えを工夫して」ということは，幼稚園児からすると「勇気をだして（話をする）」ということが含まれる。
・意欲的に発表しようとする気持ちを放っておくと，教師が「（手を挙げても発表できないから）もういいや」という感情を生み出してしまっているのではないか。挙手をしながらも発表できなかった子どもたちを，どのように補うか考えて欲しい。
・幼稚園の場合には，「話す」「聴く」の態度を育てるために１年間を通して活動に取り組む。話を聴く側の環境も，椅子を使用しコの字型に配置することなどでもっと集中して話を聴くことができたと思われるので，環境を工夫してみるとよい。
・思ったことを言葉で表現することも１年間を通して体験し，多くの成功体験を積み重ねることで，子どもたちの話そうとする意欲が育つので，本学級からこの活動を他の学級へ発信していくと園全体として有意義な取り組みになっていくのではないか。

（３）　活動のまとめ

本時の活動において，前もって話の内容を考えテレビの画面として絵で表現したり，「記者ごっこ」として家族に話を聴いたりすることで，ほとんどの子が大勢の人の前で自信をもって話をすることができた。

自分が話をする番が近づき，緊張のために泣き出した子がいたが，教師に支えられながらも自分の思いをみんなの前で表現することができた。話をすることができたという喜びから笑顔も見られ，得意なうたを歌う場面では，自信をもっていきいきと表現する姿を見ることができた。

今回は，子どもたちから「ぽけもんニュースもっとやりたい」や「お楽しみの時間に発見ニュースいっぱい考えたからやってもいい」教師に対して要望が多くあった。一人一人の思いや考えを話したいという意欲は，高まったように思われる。

しかし，話をする側と話を聴く側がお互いの思いや考えを「伝え合う」という点については，弱かったように思われる。話し手の話題に合った質問ができなかったり，話し手も聴き手の質問に対して答えることができなかったりなど，話合いが続かず話の内容にも広がりが見られなかった。今後の活動において，挙手をして話をしたという子どもたちの意欲を大切にしながら，楽しく「伝え合う」ことができる教師の手立てや場面の設定を工夫したいと考える。

Ⅷ　研究の結果と考察

本研究はテーマを「『伝え合う力』を育む援助のあり方　～言葉で表現する活動を通して～」と設定し，基本仮説を「身近な人とかかわり，言葉で表現する活動を通して，言葉で伝え合う場や援助の仕方を工夫することにより，思いや考えを伝え合うことができるであろう」とし，研究を進めてきた。

さらに基本仮説を具体化した３つの基本仮説を立

て，理論研究を行い，保育を実践してきた。そこで，３つの具体仮説を検証することにより，本研究の結果と考察とする。

1　具体仮説１の検証

言葉の獲得と表現について捉えるとともに，「伝え合う力」を育むための環境を構成するための条件について理論研究をすることにより，援助のあり方が明確になるであろう。

幼児期の言葉の獲得と表現について捉えるとともに，「伝え合う力」を育むための環境として主に保育者の役割についての認識を深めることで，積極的に幼児理解に努めることができた。

また，幼稚園生活の限られた時間内で幼児一人一人の内面を把握することは難しい場合がある。そこで，家庭との連携〈絵本貸出カード〉を取り入れることで幼児の内面理解を行い，幼児の興味や関心から教師との会話を通して，友達との伝え合いへと展開することができた。

活動の概要(3)で紹介したＲ男は，入園当初から学級集団で行う活動への参加がとても消極的であった。教師が会話をしてＲ男にかかわろうとするが，あまり会話を交わすこともなく，立ち去ってしまう場面が多かった。

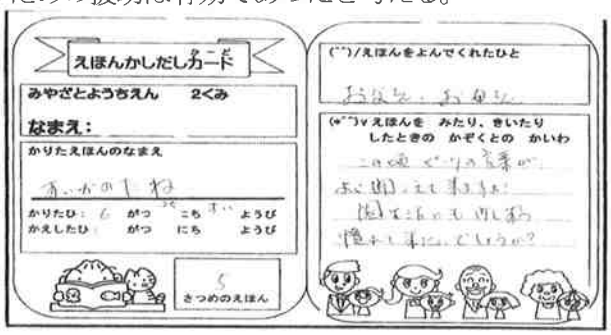
しかし，Ｒ男とのコミュニケーションを交わす糸口として，家庭に協力して記入してもらった「絵本貸出カード」や活動で使用した「記者ごっこカード」の内容を話題にすると「先生あのね・・・」と自分の家族の話を教師にしてくれた。

この場面をきっかけに教師に対して，自分から「先生，先生・・・」と話しかけてくれるようになり，活動へも友達の様子を見ながら取り組む姿がみられた。ニュースの時間で，大勢の人の前で話すことまではできなかったが，教師の側に立ち自分の描いた絵を見せることで活動へ参加することができた。

学級で取り組んでいることに興味や関心をもった姿を見せることが少ないＲ男だが，活動で取り組んだ「ピンクの言葉」を家庭でしっかり再現している様子が保護者に記入してもらった「絵本貸出カード」から読み取ることができた。

幼稚園生活では見取ることのできない幼児の姿を家庭との連携を工夫することで，家庭の話題を提供してもらい，幼児理解を深めることができた。また幼児理解に基づき，日々の生活や遊びの中で教師が子どもに寄り添うことを大切にすることにより，幼児の思いを言葉として引き出すことができた。

以上のことから，身近な人に思いや考えを伝え合うための援助は有効であったと考える。



2　具体仮説２の検証

言葉に関する実態調査や分析をし，年間指導計画を作成することにより，幼児の実態に応じた伝え合う活動や援助の工夫ができるであろう。

幼児の家庭でのコミュニケーションの様子や言葉による伝え合いの実態を捉えるために保護者へのアンケート調査を行った。アンケート結果から幼稚園で経験したことを家庭で伝えている幼児の実態を読み取ることができた。読みとった内容を踏まえ「伝え合う力」を育むために，幼児同士が遊びのイメージを伝え合う場面や考え合う場面で教師が幼児の思いを受けとめ，お互いの思いを理解し伝え合いができるように援助することが大切だと認識することができた。

実態調査やソシオメトリックテストの結果を踏まえ検証保育では，年間指導計画を作成し活動における幼児の変容が本研究における目指す幼児像へ近づくことができるように活動を展開することができた。

学級内での仲間関係を把握したり教師の観察やかわりだけでは把握することのできなかった幼児の実態を捉えたりするためにソシオメトリックテストを実施した。テストの結果は，友達とのかかわりをもたせながら活動を展開していく上で，学級内での個に応じた援助を行う際に活用することができた。

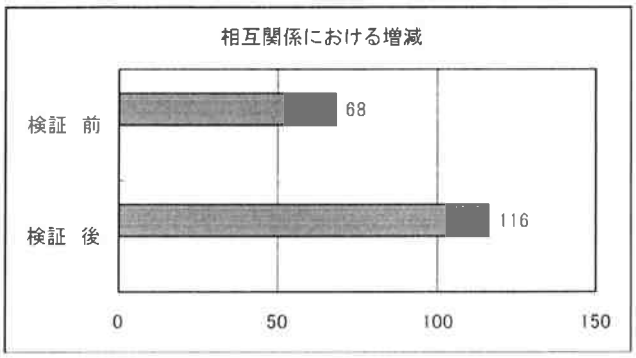
表２（ ◎：相互関係，○選択関係）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	◎	○
1					○	○				○			◎		○	○											○					1	6
2			◎	◎					◎					◎	○																	4	1
3		◎		○	○	◎	◎	◎	◎	○	○		○	◎		○																6	5
4		◎			◎	○			○		○	◎	○	◎			○					○										4	6
5				◎			○			○		◎			○	○	◎															3	4
6		○	◎		○		○	◎			○	○			◎																	3	6
7			◎					◎		◎				◎																		4	0
8			◎			◎	◎			◎		○			◎																	5	1
9	○	◎	◎			○	○	○		○	○																					2	6
10				○		○	◎	◎			○	◎			◎																	4	3
11		○						○													○											0	3
12				◎	◎		○		○	◎			○	◎																		4	3
13	◎					○																										1	1
14	○	◎	◎	◎		○	◎	○	○		○	◎	○		○													○				8	7
15			○			◎	◎	◎	○	◎	○	○					◎															5	4
16			○					○	○	○		○			○		◎															1	6
17	○					◎	○	○	○		○	○	○		◎	◎				○	◎	◎		◎	○	○	◎				○	7	11
18				○					○								○		◎	○	◎	◎		○	○	○	○		◎	◎		5	8
19																			◎		◎	◎	◎	○			○	◎	◎		○	5	3
20				○																◎		○	◎	○			◎		◎		◎	5	3
21						○											◎		◎	◎			◎				◎				○	5	2
22					○				○								◎		◎	◎	◎	◎		◎	◎		○	◎			○	◎	8	4
23				○													○				○	◎			◎		○					◎	3	4
24				○													◎				○	◎	◎									◎	3	2
25									○											○		○										0	3
26																				◎	◎							○			◎	3	1
27					○												◎		◎	○	○	◎			○						○	3	5
28				○													○	○	◎	◎									◎	◎		4	3
29				○					○										◎	○	○	○		○		○		◎		◎		3	8
30				○															◎		◎					◎	○	◎	◎			5	2
31						○													○		○	○	◎	◎							○	2	5
	4	6	8	13	8	12	10	10	11	10	8	9	5	5	9	3	11		7	7	11	12	13	5	6	3	9	6	6	3	9	5	##	##

活動の検証前と後に行ったソシオメトリックテストの結果にも友達とのかかわりに広がりが見られた。検証前に人数を限定せずに好きな友達の名前をあげてもらったところ，学級全体で156であったが検証後は242に増加していた。また，お互いを選び合った相互関係の増減の変化についても，検証前が68から検証後は116へと増えていた。（図１参照）

この結果から，遊びにおいて友達とのかかわりが増えることで，自分の思いや考えを伝え合う意欲が高まり，新しい活動に自ら挑戦し，楽しく活動に取り組むことができたのではないかと考える。

図１：ソシオメトリックテストにおける相互関係の増減



以上のことから，活動においては，大勢の人の前でも自信をもって自分の話を伝えることや相手の話を聴いて理解しようとする姿勢がもてるように取り組んだ。そのために，言葉で伝え合う楽しさが味わえるように，話をする側への援助として，幼児の伝えたい内容を教師が理解し，話を聴く側が理解できるように話し方を教えたり，言葉を補ったりした。話を聴く側へは，話し手の話題に対して質問を投げかけたり，引き出したりしながら会話をつなげ，応答する楽しさを味わうことができるようにした。

公開検証保育の前時の活動では，本時の活動の中のお楽しみの時間に行う「手話ソング：緑の風と青い空」を決める子どもたちの活動の中に，応答する楽しさを味わっている姿を見ることができた。

K子：「先生，明日お楽しみの時間にM子と一緒に歌やってもいい」
教師：「いいですよ，みんなはどうですか？」
学級：「いいよ」
M男：「なにうたうの？」
K子とM子：「緑の風と青い空」
H男：「おれも歌いたいけど忘れているところがある」
M子：「先生，K子とM子で教えるから明日みんなでやっていい？今から練習しようね」

このように，ニュースの時間の中で教師に自分たちの考えを伝えながらもお互いに意見を伝え合い，子どもたちの考えから活動が展開できた場面であった。その後も，「自分で作ったロボットの話がしたい」，「先生に書いたお手紙よみたい」，「みんなに『ぱくぱく』の折り紙教えたい」等々の声が多々あった。

以上のことから，友達と考えを出し合い，伝え合って取り組んだ遊びにおいて，自分たちが達成した喜びを言葉として表現しようとする「伝え合う力」が芽生えてきたのだと考える。

３　具体仮説３の検証

身近な人とのかかわりを通して，応答する楽しさが味わえる活動を取り入れることにより，「伝え合う力」を育むことができるであろう。

自分の思いや考えを言葉で表現し，応答する楽しさを味わうことができるように，「ぽけもんニュースの時間」を設定し教師や友達とかかわりながら活動に取り組んだ。

はじめは，大勢の人前で話をすることが怖いと感じ，泣き出した子や教師に「やりたくない」と思いを訴えた子もいた。

しかし，自分が話したいことを考え，その内容を絵に表現する過程で教師との会話を通して，子ども

なりに話を準備して，発表する場面に臨むことで，多くの子が勇気を出して話をすることができた。

話を考える過程では，一人で考えるのではなく，教師や友達と会話を交わしながら取り組むことで，どんなふうに表現したらいいかなど，子どもなりにヒントを得て，自分なりの表現ができるようになった。

また，教師がインタビュアーになり話を引き出し，聴き手にその子の話したい内容が伝わるように援助していった。そうすることで，教師との信頼感に基づいた励ましに支えられ，自信をもって堂々と表現する姿がみられた。

話を聴く側も，友達が一生懸命頑張って発表している気持ちを，自分が発表した時の体験と照らし合わせ緊張感を共有することができ，優しい気持ちで話を聴いてあげようとする姿が見られた。

今回の活動において「ぽけもんニュースの時間」に取り組む中で，自分の表現したことを教師や友達から認められることで，その子の自信につながり「もっとみんなにお話したい」，「みんなに歌を教えたい」など表現意欲の高まりも見られた。

２回目の実態調査では，保護者の自由記述から「ぽけもんニュースの時間」で子どもなりに感じた思いを表現した下記の子どもたちの言葉を読みとることができた。

・「ニュースの時間に，○○ちゃんと一緒に 1～100 まで数えたよ」と話していました。
・最近は感謝の言葉をよくつかうなと感じます。「ありがとう」「とってもうれしかった」「とっても楽しい」「しあわせ」等，色々な場面でそう言った言葉を言っているのでまわりも優しい気持ちにさせてくれます。

さらには，友達とかかわることで，「お楽しみの時間」への参加や「発見にゅうす」の発表など「先生，○○さんと一緒ににゅうすの時間にやりたいことがある」，「次は○○の番だから絶対にさせてよ」等，活動への意欲の高まりも感じられた。

一人一人が幼稚園の活動を通して経験したことについて感じた思いや考えを，教師や家族に対して，自分なりの言葉で表現できるようになった。また，家族が子どもから聴き取った言葉は，1 回目の実態調査の同じ自由記述よりも言葉数も増え，表現も豊かになっているように思われる。

このように，言葉で表現する活動として，「ぽけもんニュースの時間」「発見ニュース」等の応答する楽しさが味わえる活動を取り入れた。

そうすることで，本研究で目指す幼児象すなわち，思いや考えを伝え合い，心を通わす姿，身近な人とかかわり，楽しく活動する姿の具現化に迫ることができたものと考える。

Ⅸ　研究の成果と今後の課題

１　研究の成果

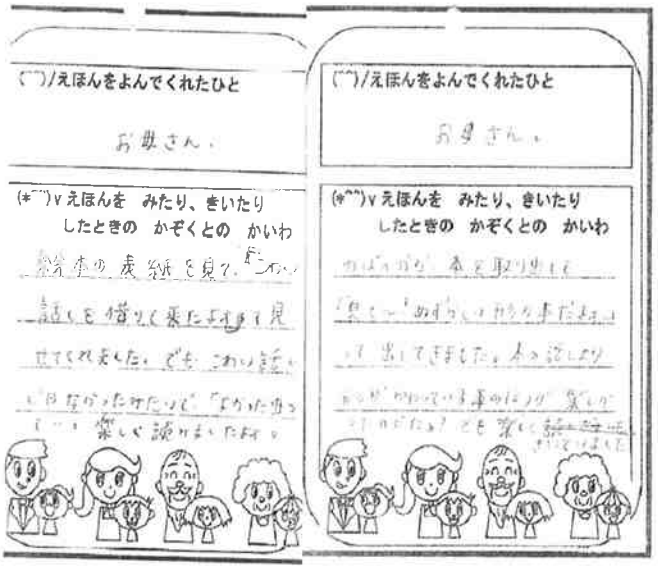
・保護者へのアンケート調査を行うことで，幼児の言葉の実態を把握し，また幼児の言葉の発達に応じた活動を計画して展開することができた。
・ソシオメトリックテストを活用することで，学級内での友達関係を把握することができ，友達とかかわりを深め，互いに考え合ったり，伝え合ったりすることができるようになり，さらには好奇心や探究心につなげる援助ができた。
・幼児の言葉の獲得と表現について捉え，「伝え合う力」を育むための環境を構成する条件につて理論研究をすることにより，幼児の気持ちを受けとめるなど内面理解に基づいた教師の援助をすることができた。
・幼稚園での活動を展開する際に，保護者に協力をしていただき，家庭での話題を提供してもらうことで，子どもが意欲的に話すことができるように質問したり，言葉を補ったり，教えたりするなど援助の工夫ができた。
・子どもの意見や考えを取り入れ，学級での話し合いを通して活動を展開することで，子どもたち自身が活動に遊びの楽しさを見出し，またその楽しさを言葉として表現し伝え合うことで，子どもたちと一緒に活動の展開を工夫することができた。
・年間計画を作成することで，挨拶などの基本的生活習慣を活動に取り入れたり，教師が場面に応じた言葉を使うことで，子どもはその姿を見たり，言葉を聴いたりして，自分なりに丁寧な言葉を使ったり，豊かな表現ができるようになった。
・活動を通して，教師や友達とのかかわりが深まり，親しみを感じている教師や友達の話や言葉に興味や関心をもち，主体的に話を聴くことができるよ

うになり，話し手の思いを共感する楽しさを味わわせることができた。

2　今後の課題

（今後の取り組み）

・今回の活動において，活動前後のソシオメトリックテストでR男とR子は，相互関係がなく活動における変容がみられなかった。活動の取り組みにおいても，活動への参加が消極的だったり，大勢の人前で言葉として表現できなかったりする姿が見られた。しかし，言葉による「伝え合う力」を育むために，家庭と連携した絵本貸出カードには，家庭での読み聴かせを通した親子の会話の記録から，幼稚園で活動したことについてのその子なりの思いや考えを読み取ることができた。



R男の場合：幼稚園では，全く活動に興味を示さなかったが，報告書 27Pで紹介した絵本貸出カードに示されているように幼稚園で取り組んでいる「ピンクの言葉」を家庭で再現している姿が保護者の記述から読み取ることができた。

R子の場合：教師にも友達にもあまり話をしようとしないR子だが，物語の世界を感性豊かに感じ取り，お母さんに自分の思ったことを自分なりの言葉で表現し，伝えることができている姿を読み取ることができた。（右上図）

これからさらに，積極的に「伝え合う」活動に取り組むことができなかった子どもたちを中心に，家庭での言葉の育ちの様子を参考にして，楽しく自ら表現したいと思うような活動や援助の仕方の工夫に努めたい。

・幼児の実態に応じた活動内容や援助のあり方を再検討し，引き続き年間指導計画に基づいた実践および活動を展開する。

・話をする側と聴く側の「伝え合う」場の設定や共に参加できる活動の工夫をする。

・ソシオメトリックテストと行動観察を併用し，子どもの実態把握に努め，本活動に消極的であった子の支援の工夫をする。

・「伝え合う力」を育むことをテーマに研究を進めてきたが，教師が子どもたちへ伝え合うこと，認め合うことを大切にすることで，身近な人とのかかわりを広げ，子どもの「伝え合う力」を育みたい。

＜主な参考文献・引用文献＞

・文部省　1999「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
・国立教育政策研究所　教育課程研究センター　2005「幼児期から児童期への教育」ひかりのくに
・森上史朗　柏女霊峰編　2006「保育用語辞典」ミネルヴァ書房
・小川博久・森上史郎・小田豊・神長美津子編 1999「新幼稚園教育要領の解説」
・高杉自子・柴崎正行・戸田正美編 200 1 「新・保育講座⑩　保育内容『言葉』」
・森上史郎編 1998　「幼児教育への招待」ミネルヴァ書房
・大越和孝・安見克夫・髙梨珪子・野上秀子・斎藤二三子編著 2006「保育内容『言葉』言葉とふれあい，言葉で育つ」東洋館出版
・神長美津子・田中敏隆・吉永八代子編著「新・年齢別クラス運営⑥　5歳児のクラス運営」ひかりのくに
・沖縄市立教育研究所　紀要 117 号　（平成 18 年度　後期　第 43 集）